

25-832



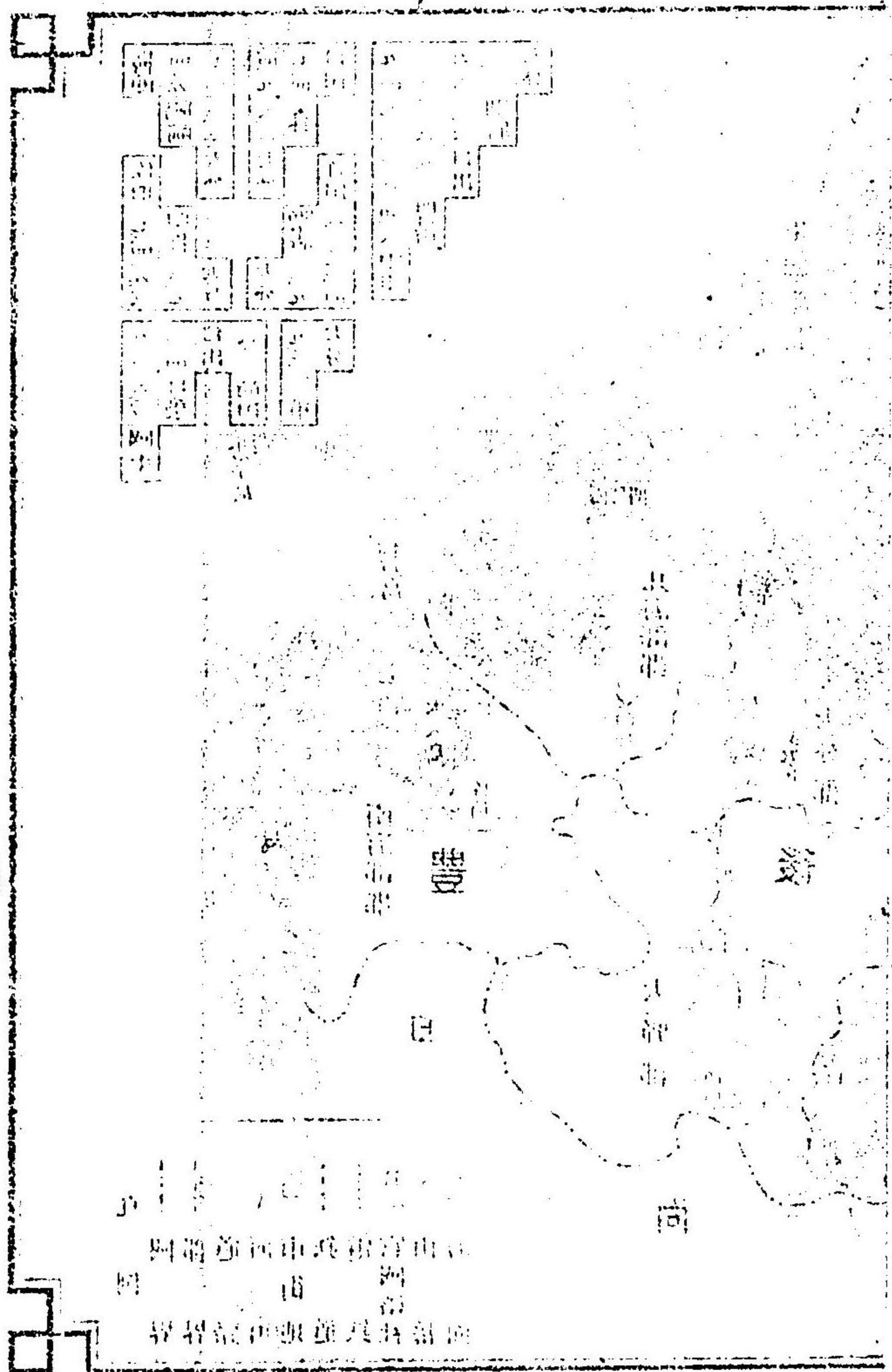
大方縣案內

大方縣農會  
會主任 郭德講 演會

明治  
42 7 27  
內交



大分縣分大

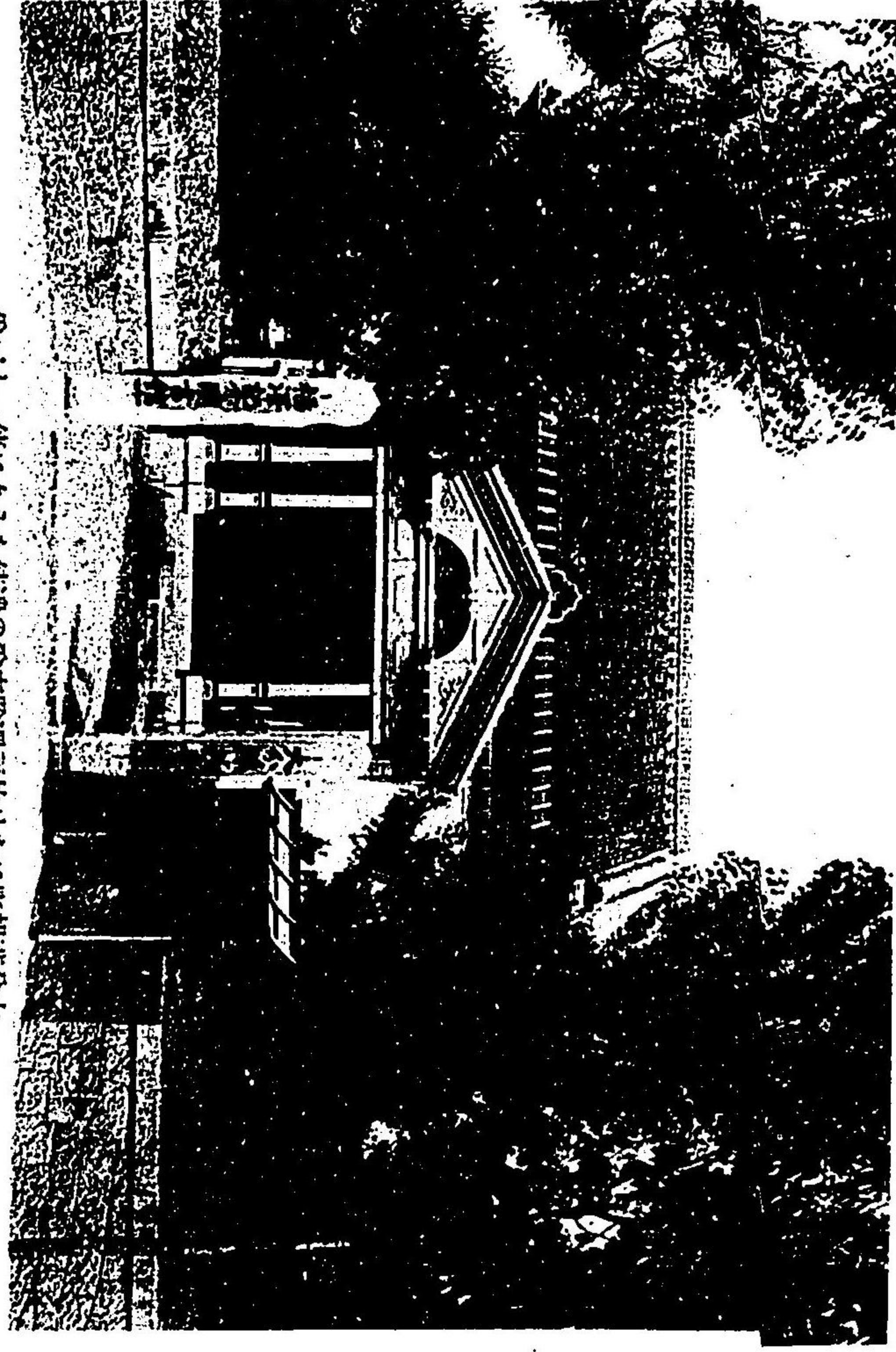


大分縣廳



大分縣廳舊町揚分大  
 大正四年原高之築向今尚存

大分市街西北の第一遊藝園に於て  
大分県立教育会に於て久永を以て  
爲す



福澤記念圖書館

春日浦



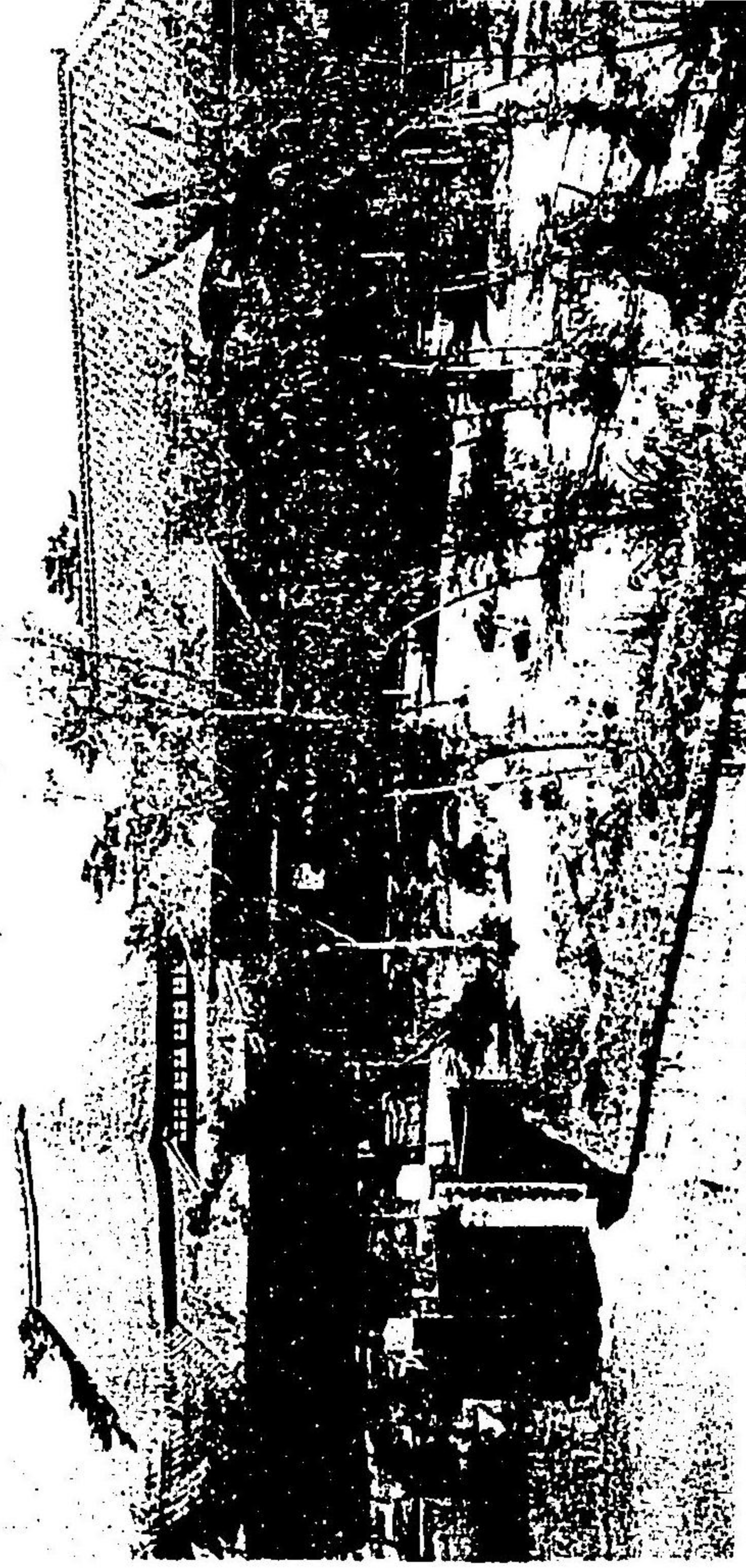
大分市街西北の第一遊藝園に於て  
四洲園遊藝場跡に於て

りわに：彌北西の街市分大ふ云と港舊諸名一  
すの船夜日入山の船船る至に港新豐日國中園四び及神阪



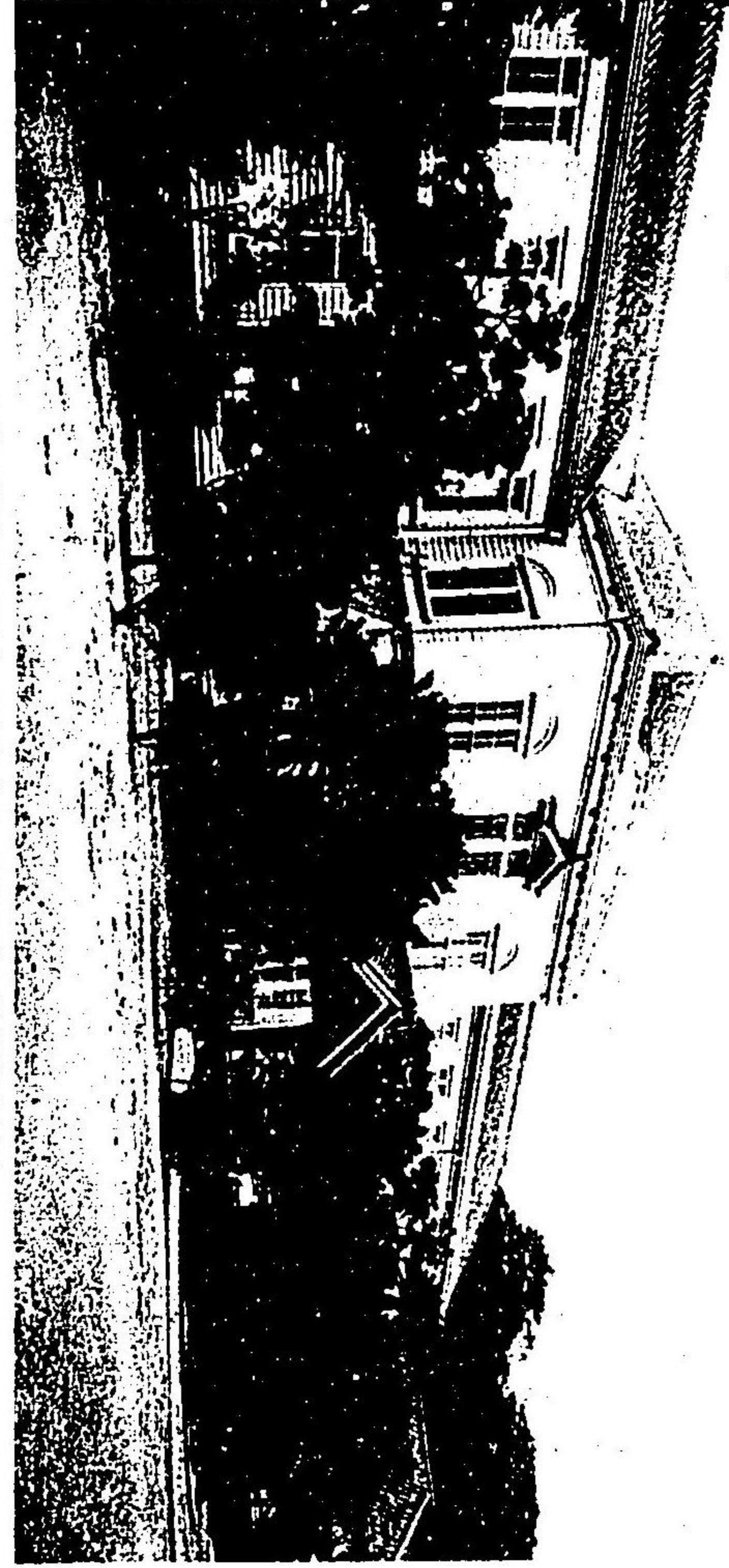
港 分 大

部 支 分 大 會 德 武



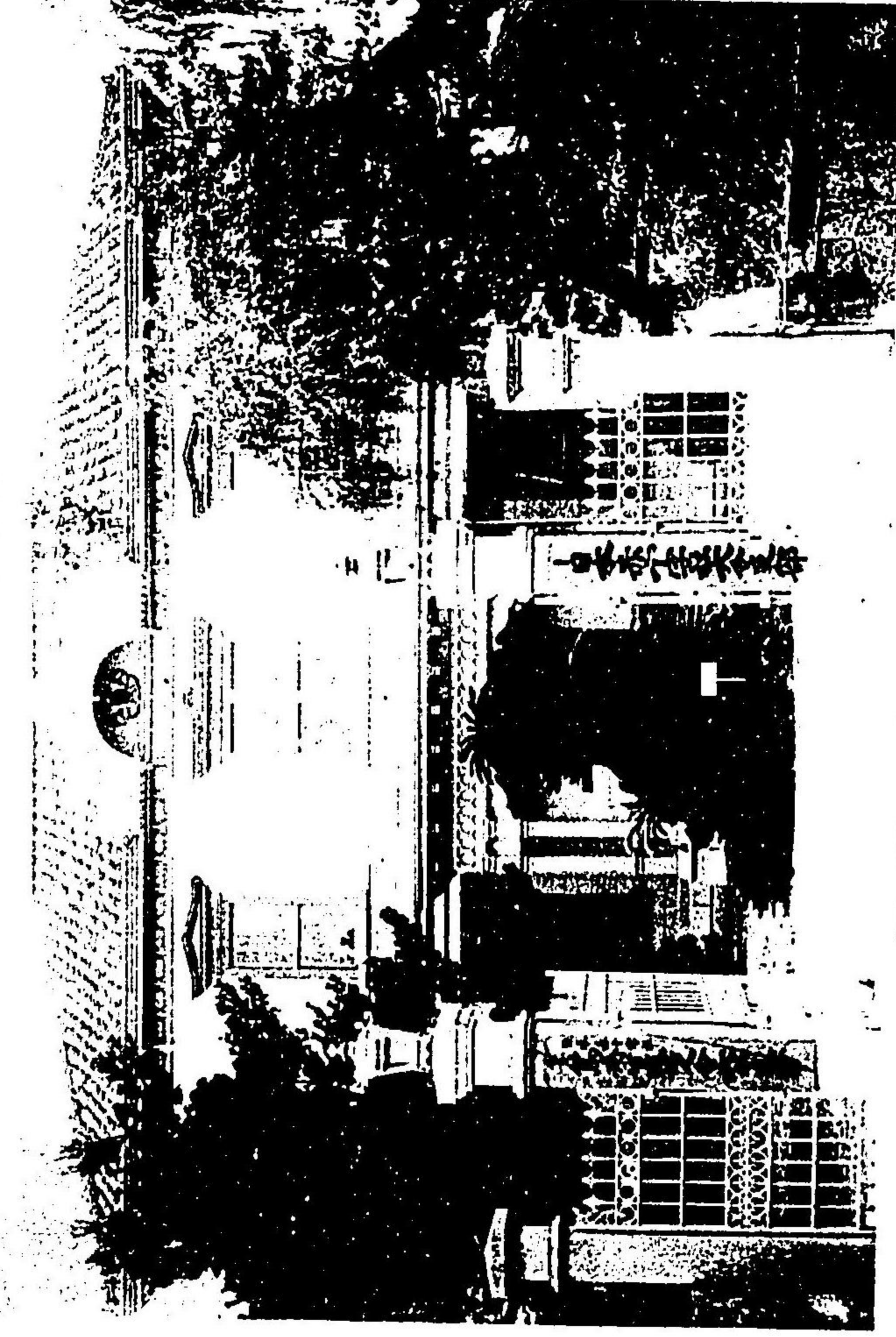
す有を人餘千二萬七員會てしに設創の年二十三治明りあに町揚荷分大  
りたれらせらあ臨台下殿宮本梨下殿宮見伏て會

大分市香日園の西にあり明治三十三年に築成せる



大分縣師範學校

赤十字分支部



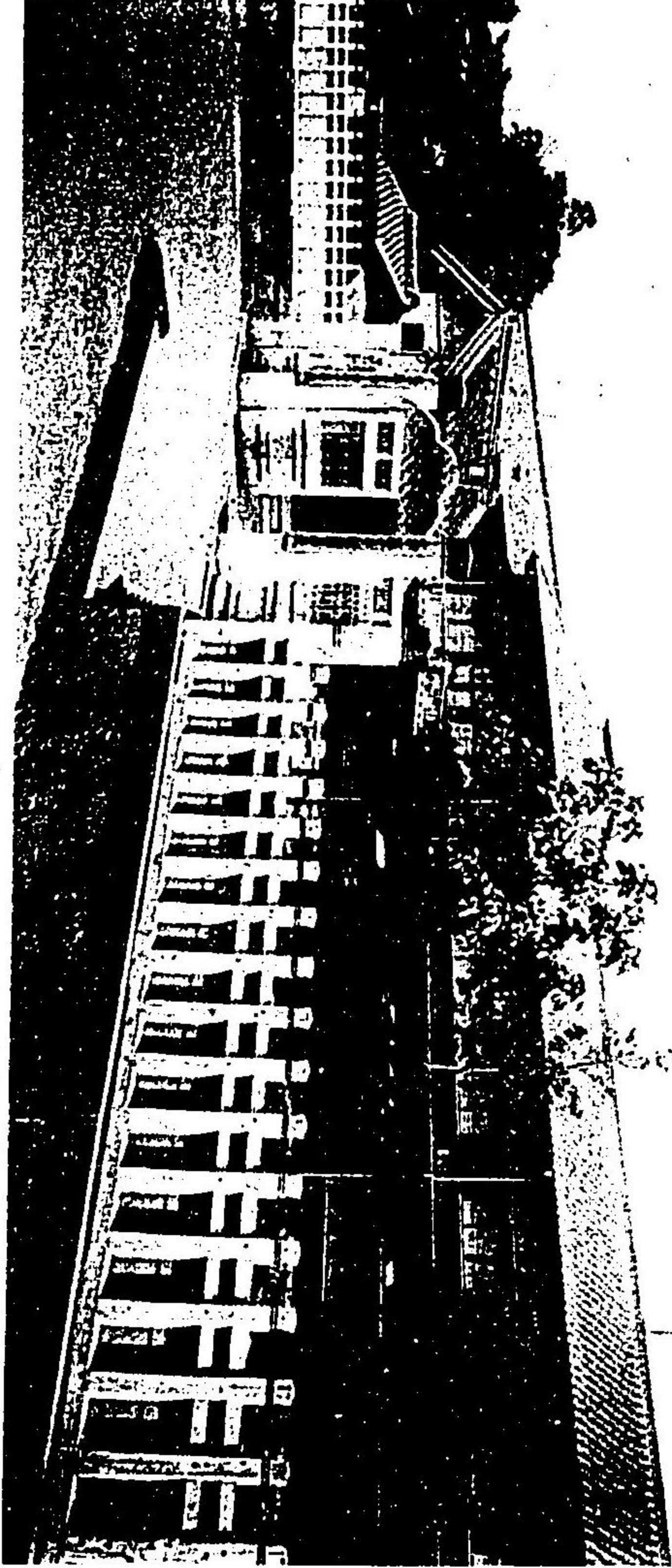
大分市西街の西にあり明治三十六年築成せる  
社員八千八百餘人



りあに丘ヶ野上里半南る距な街市分大  
つ落に透机影翠然霈昇眼り係に築建の年七二治明

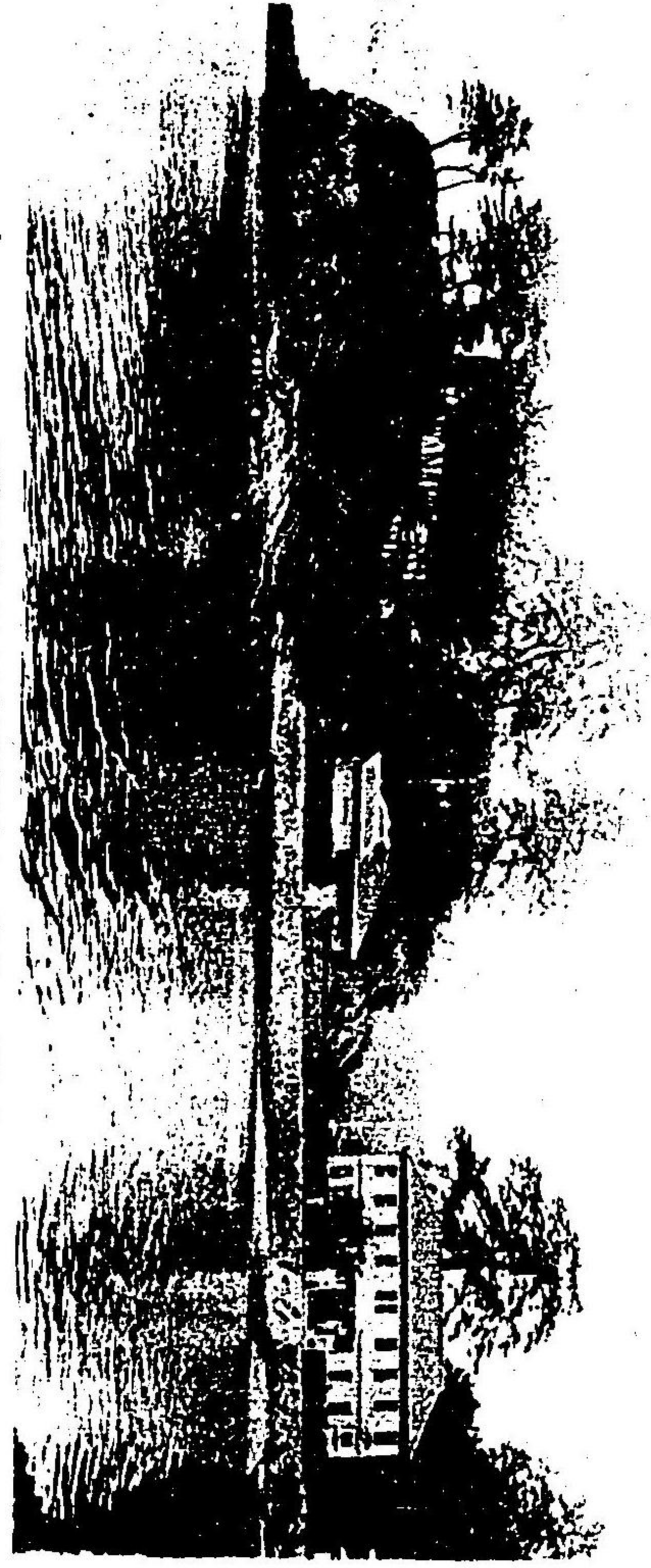
校學中分大立縣

校學範師子女縣分大 校學女等高分大立縣



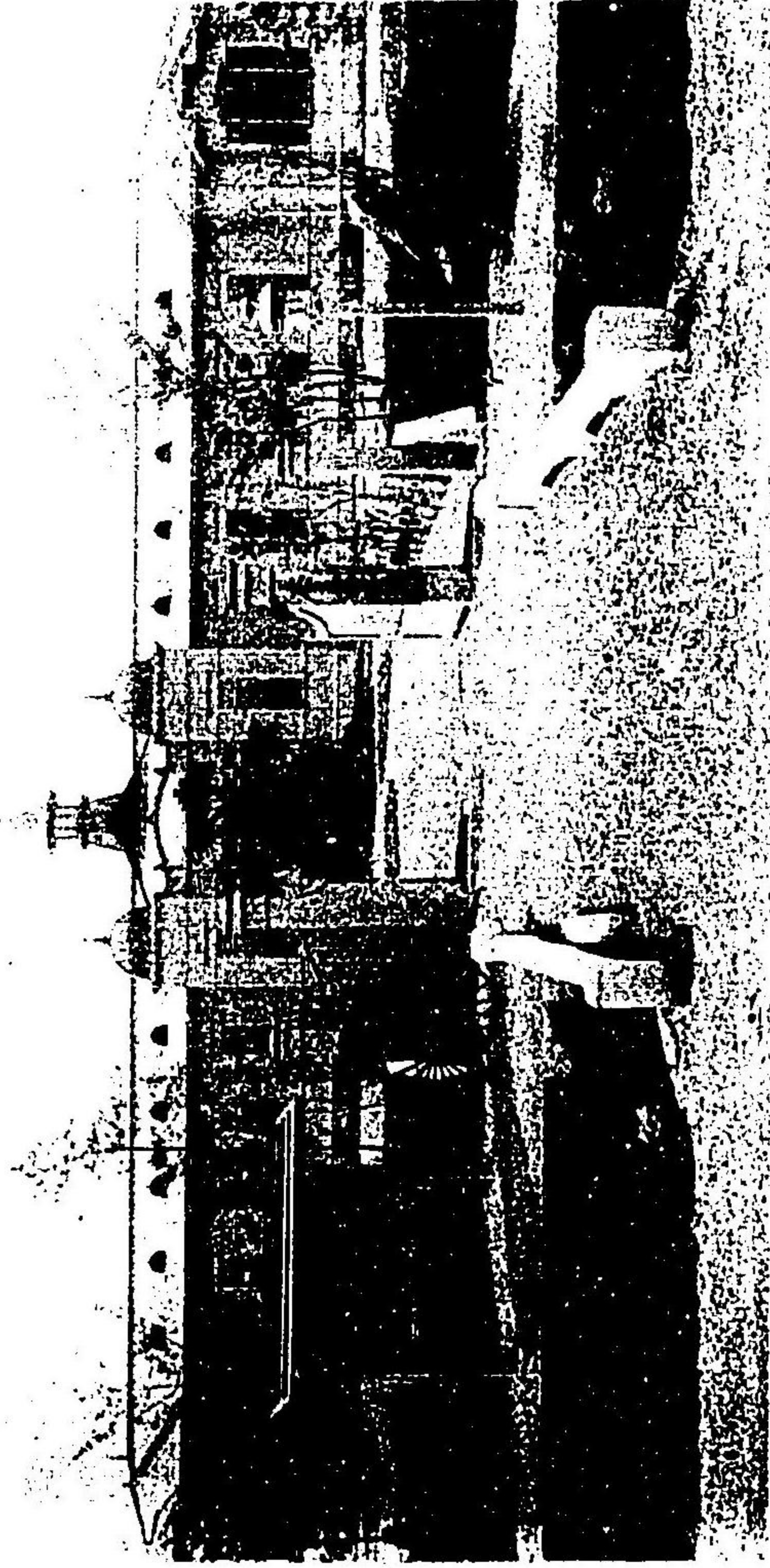
る係に築建の年六十三治明は舎校現りあに町揚部分大

る保に立設の年三十三治明りおに端南の町開賀佐



場 驗 試 産 水 縣 分 大

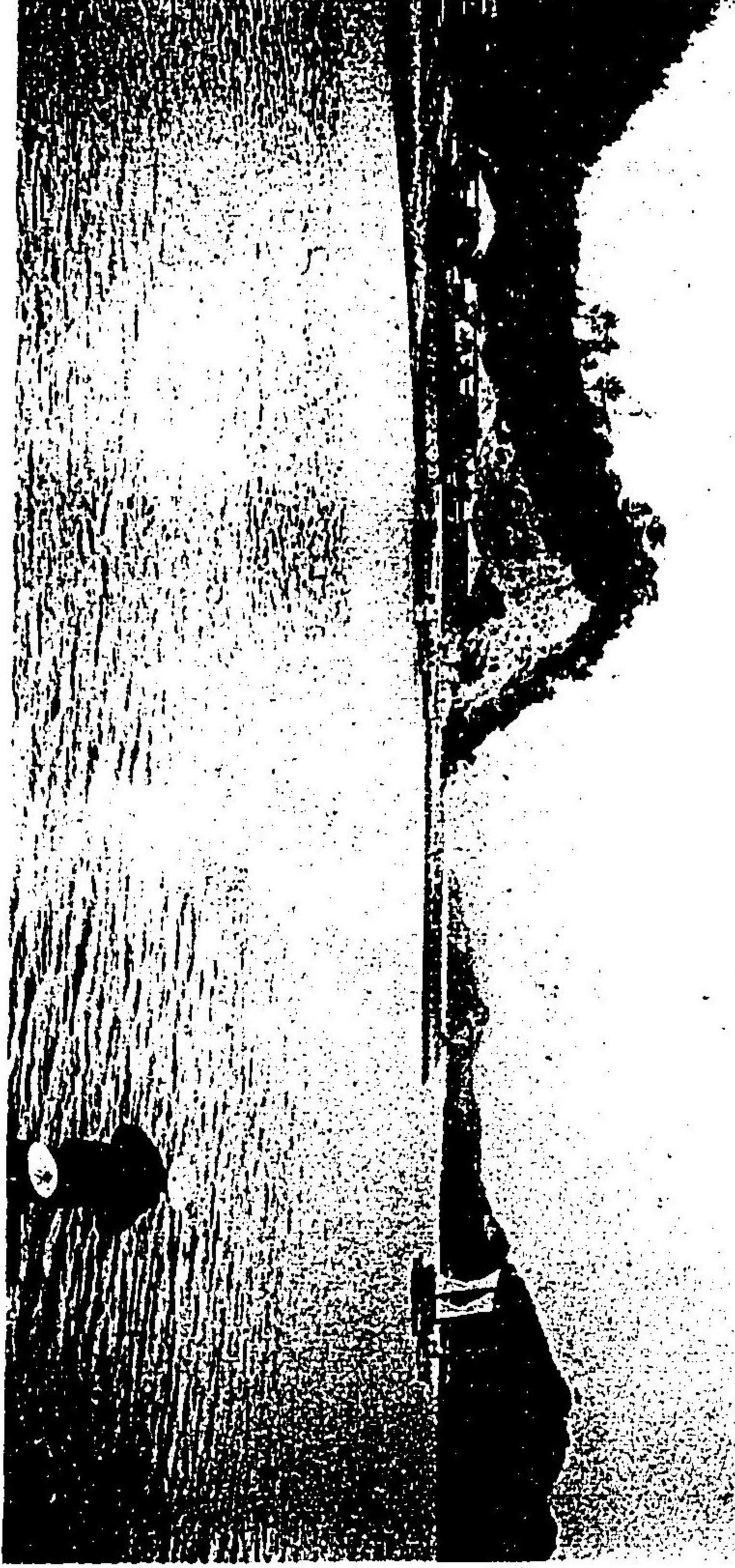
場 列 陳 産 物 縣 分 大



り保に場開の月五年十四治明りおに部北西の街市分大  
りせ供に覽様の衆公てし集覽な産物の要主内縣

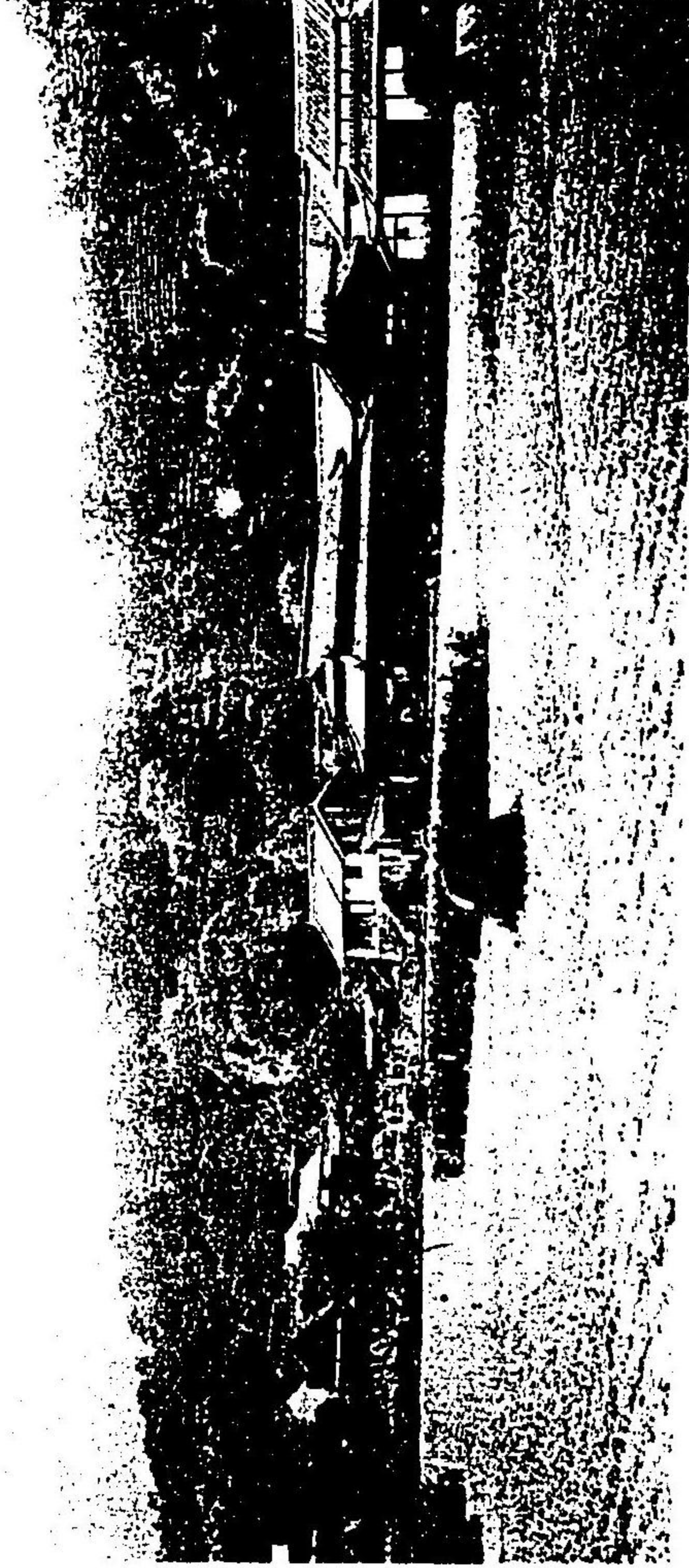


りあに北東の町佐部郡海南ふ云と港葛に一  
すらかな群のしるす港寄の船船てしに船波く深水内將



港 伯 佐

園 柑 蜜 組 津



りせ博を名の州紀小し培校を樹柑蜜帯一片海りあに村組津郡部海北  
四餘千九萬七額産の度年一十四



影 刊 の 景



りな観眺る頗間十八幅丈十高各瀑二雄雄る懸に流中の川瀧白郡入直

鏡 黄 硫 住 久



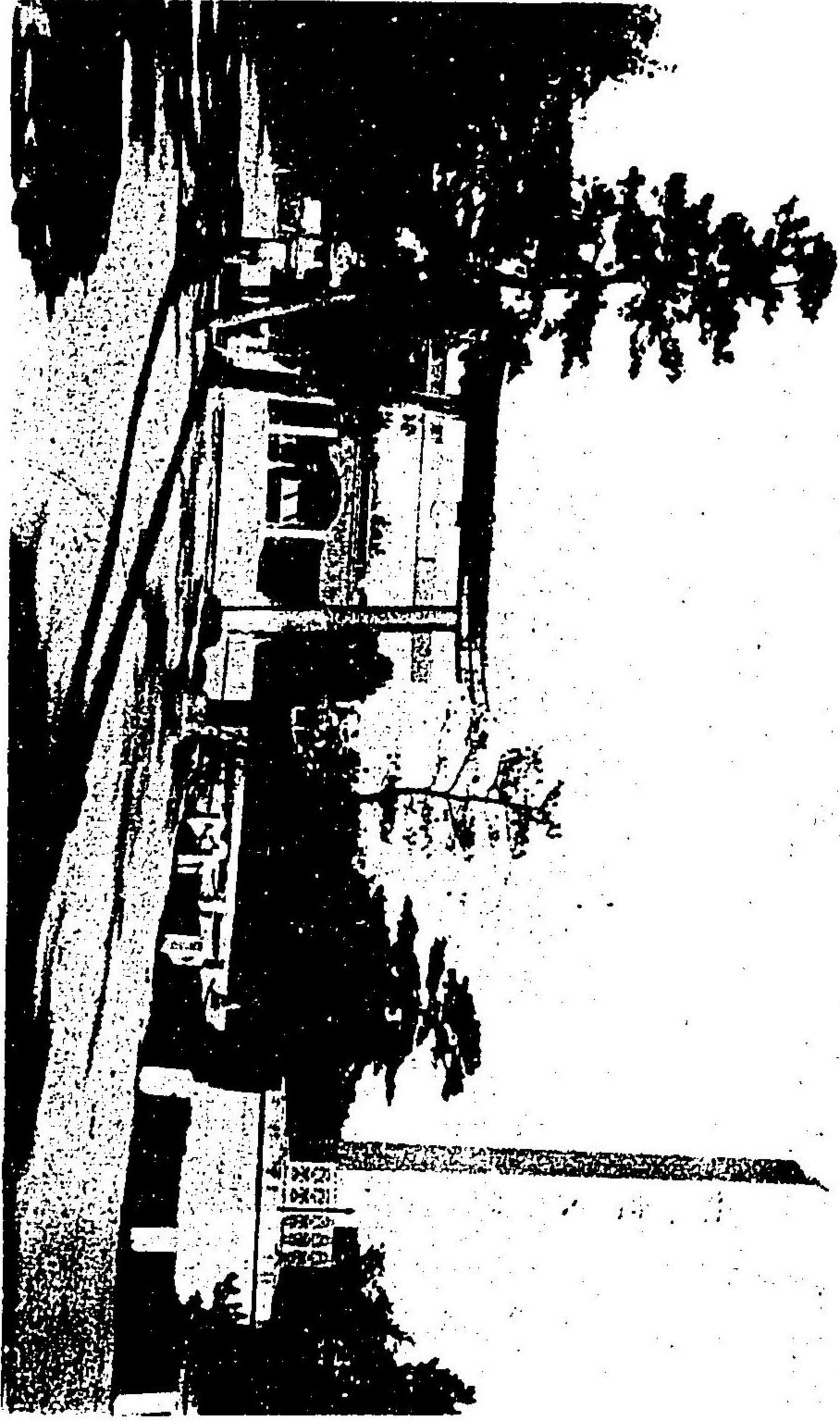
りおに脈山重九部南の郡珠玖  
斤萬四約級産の年一七柱を産産も最々濃煙白

りた橋中の郡田日てしてに北轄直の府幕舊  
し高に近遠名の其魚香の川殿三るす流比を街市



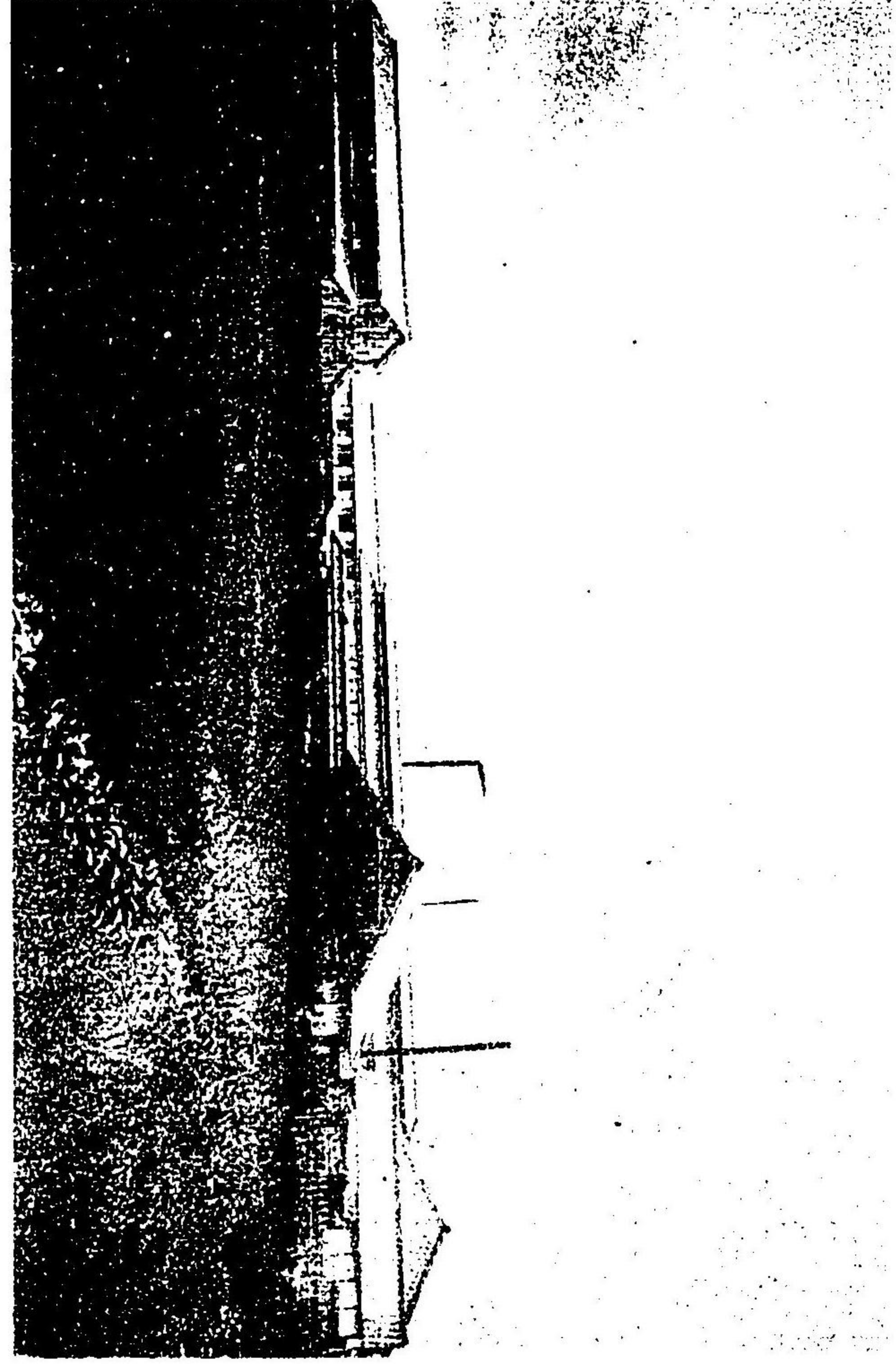
日 田 全 町 景

獨 立 自 守 碑



りたの吹波義士の原自立獨しと道畔の翁澤編故りあに内園公町津中郡下  
りな所るす設建の會育教縣分大年七十三治明

てしに立襲の年九十二治明りあに繼存の街市津中  
りな馬糸製の敷存下縣個百二敷笠



場糸製中製

寺漢羅



ふ云さる係に基開の人仙道法問年化大てしに勝名の中溪馬耶  
りな絶奇の下天に真境幽の音青雲白壁絶巖断



リウに岸野の驛が極東馬耶  
ふよとしりまじ投な草す借を句斐に終し對に京總の此陽山傾

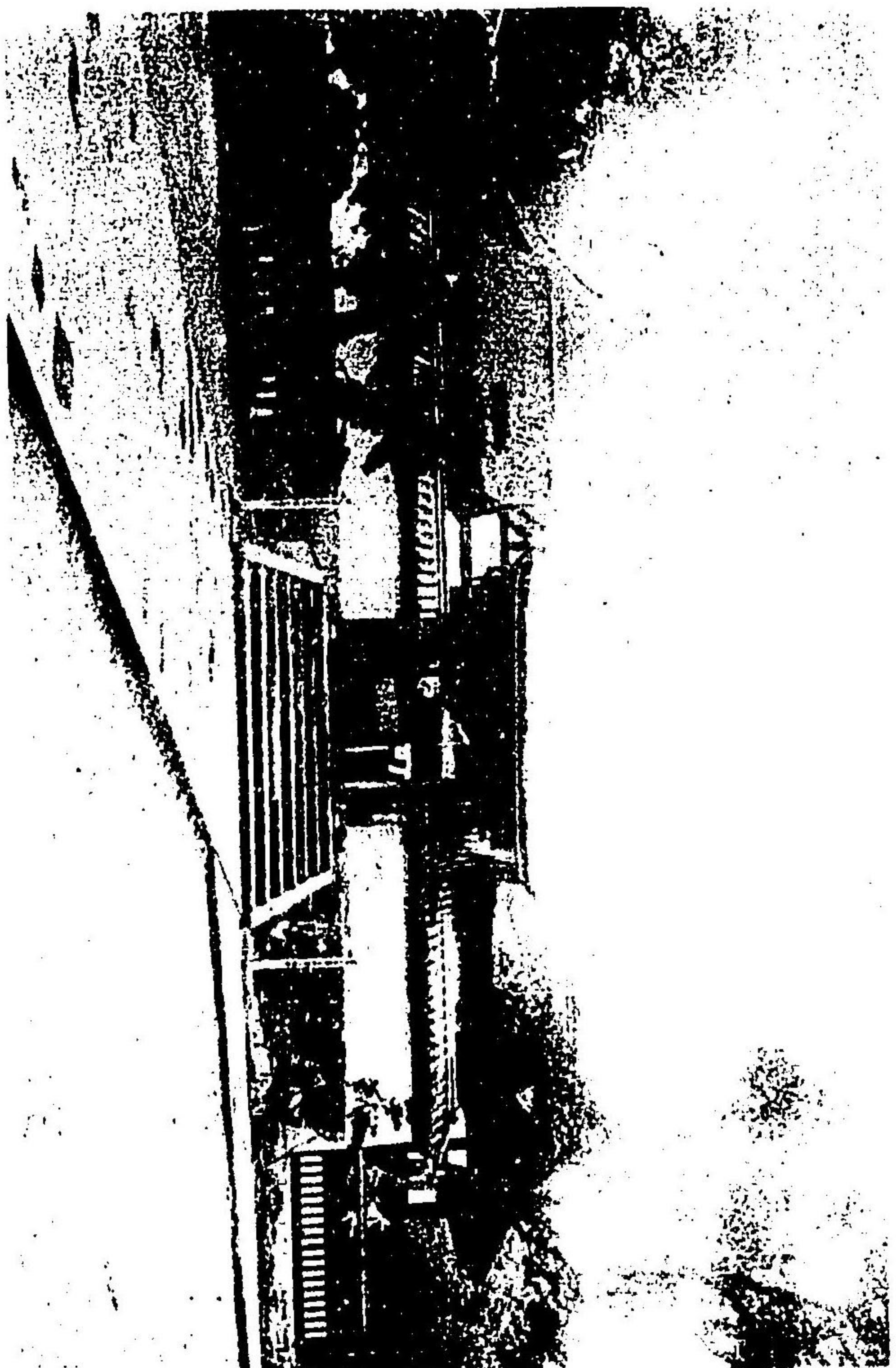
岩投筆陽山

三門洞の青



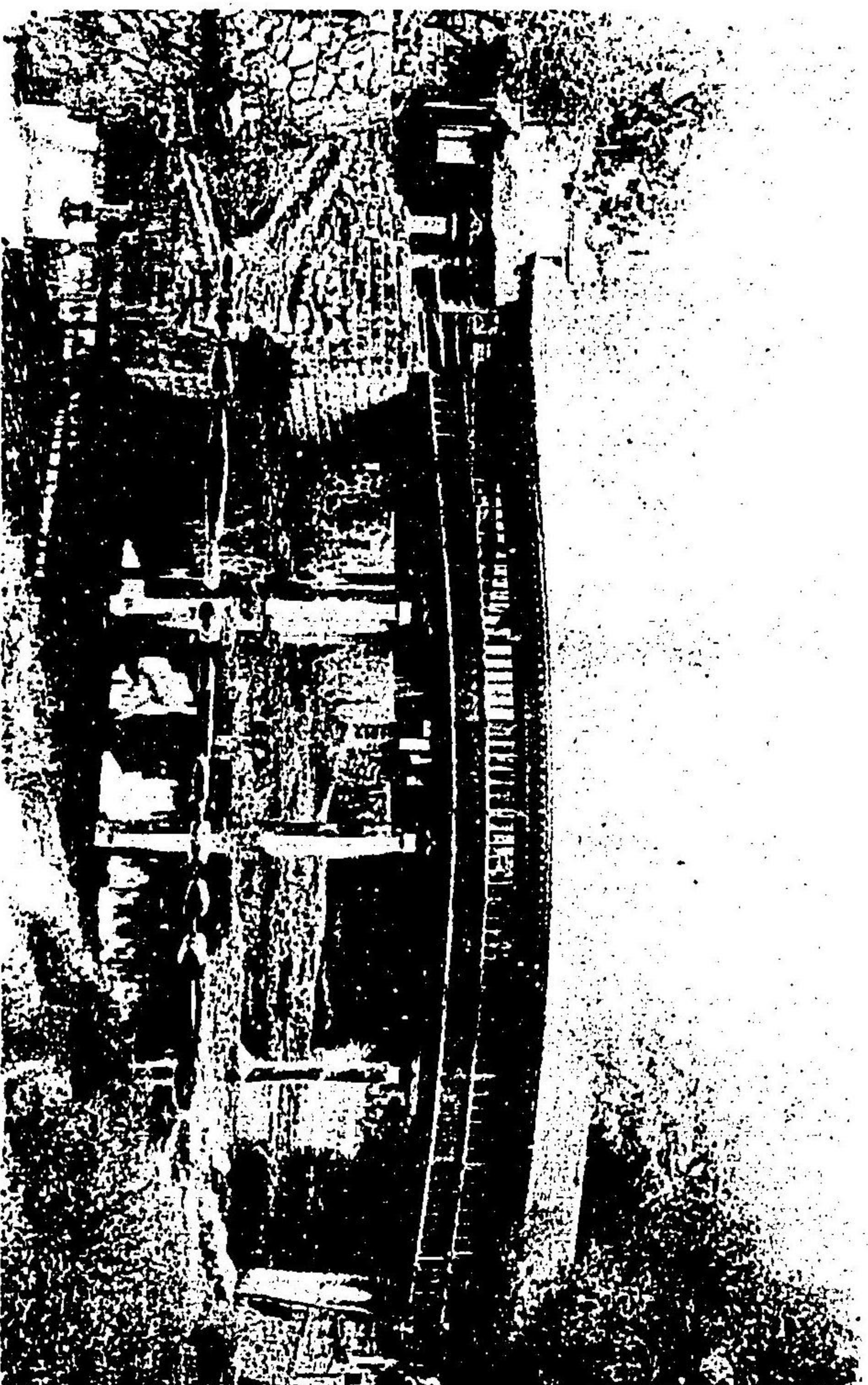
てして勝奇の中後馬耶丁敷府の驛田園郡毛下  
りな道陸る成に營經心書の海程僧中水寛

門中西宮神佐宇



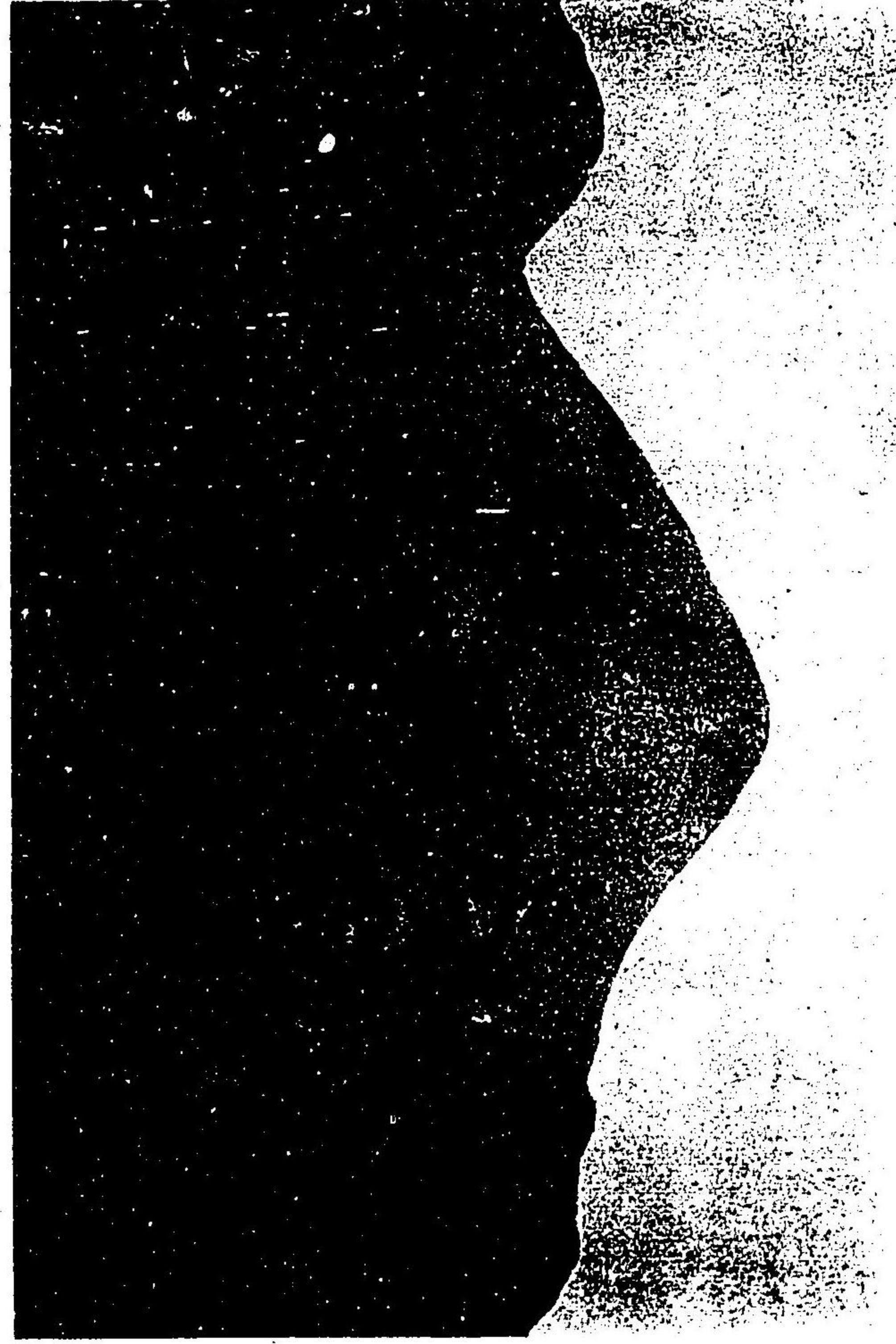
すりよ門此は御出の奥御時祭りおに西の殿社宮神佐宇社大郡官  
ふ云さ社使物に俗る植に毎度の向導使物は社社の前門

橋吳宮神佐宇



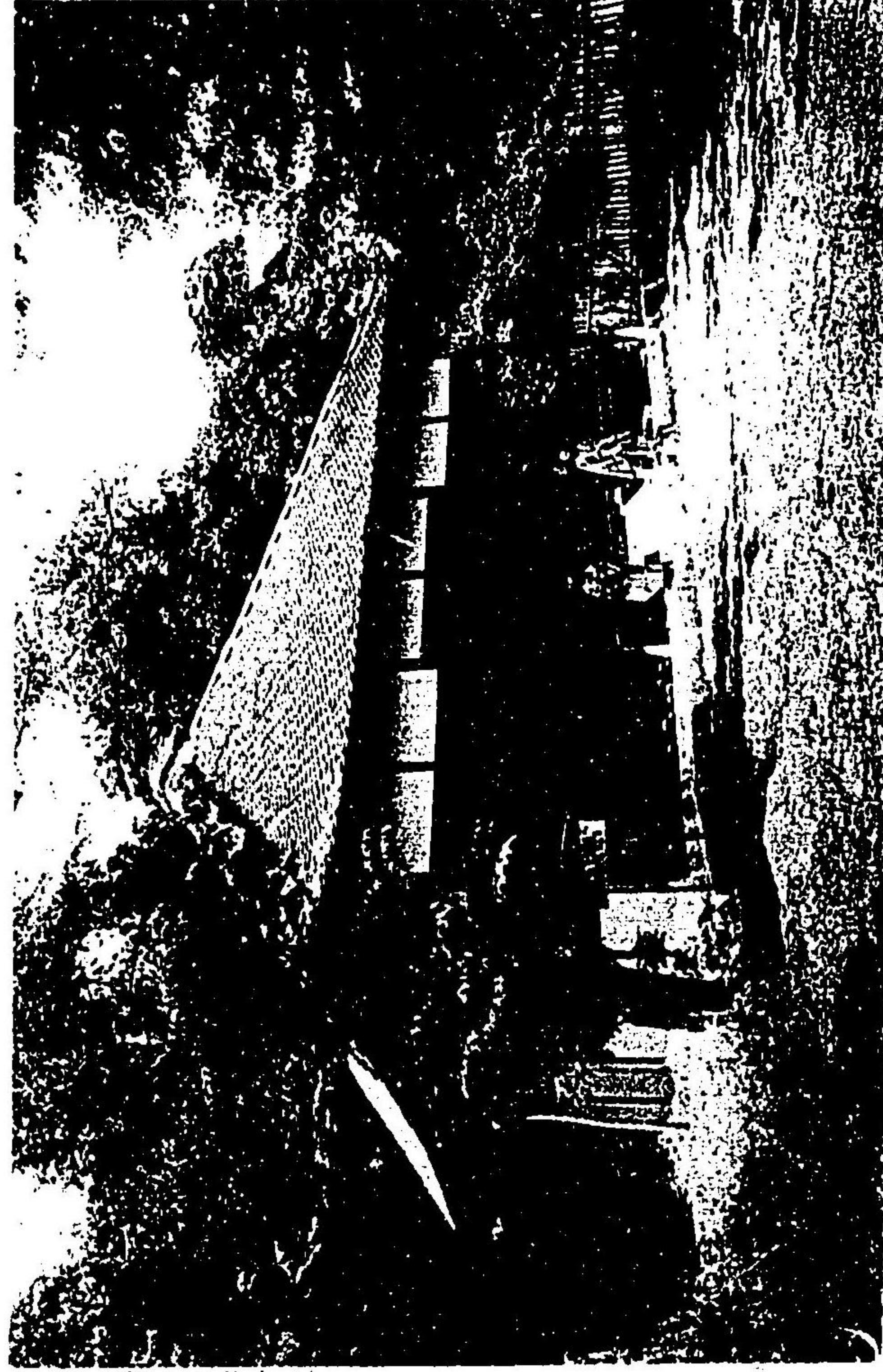
る係に遊訪の氏川細間年和元す架に川築の湖西の死神  
つ湖に鼓氣清ら落に水火盛

てしに開設の年五十三治明りおに山子蘭部西の郡東國東  
りな等傑松相補形るこさる植の其歩町餘百二畝面



林 範 模 縣 分 大

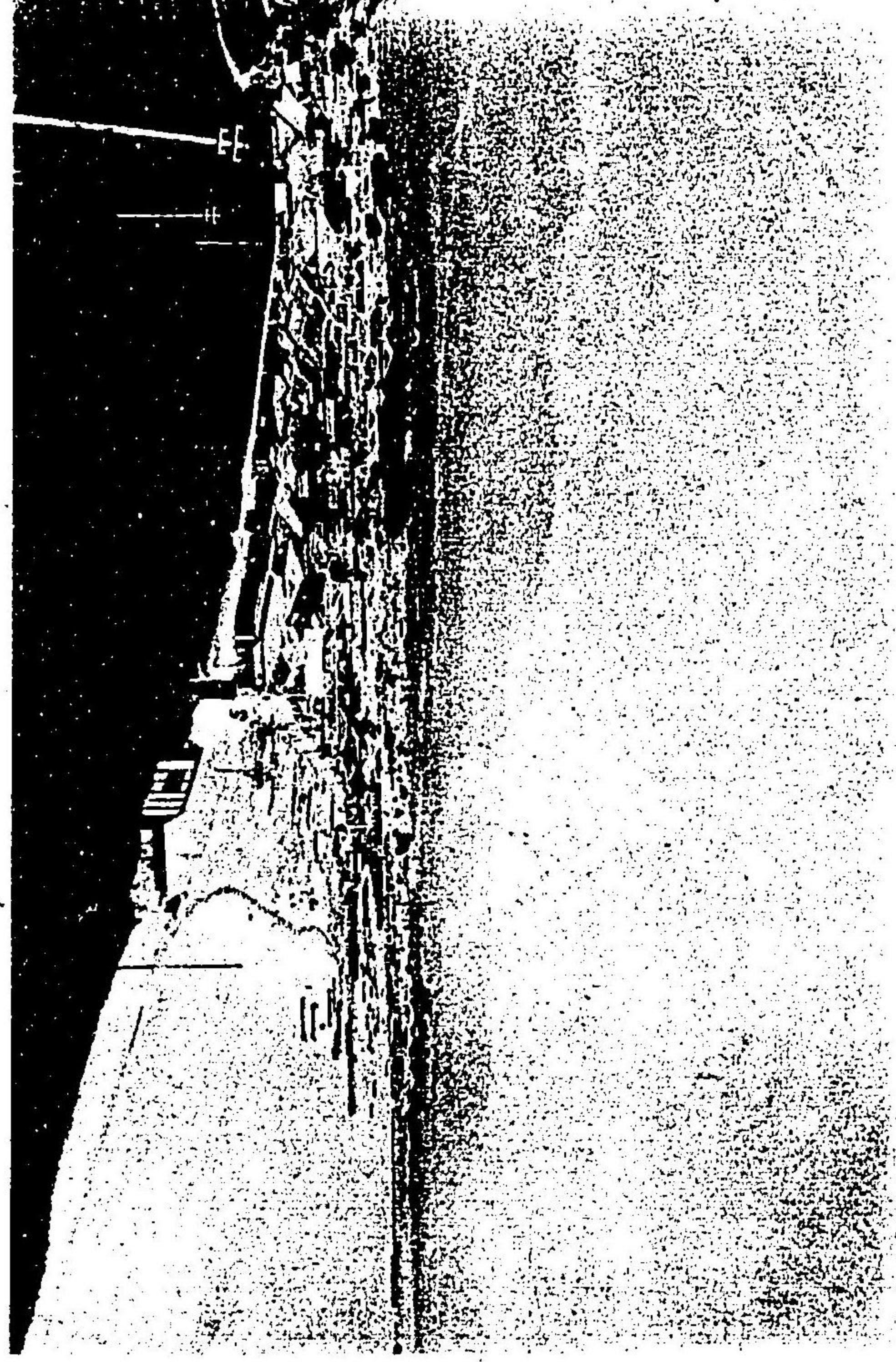
富 貴 寺



所るむ創の間仁僧問年老養りあに村桑田郡東國西  
ららせ定指に寶國時近む極を美の負輪さ甚な像佛く悉可壁







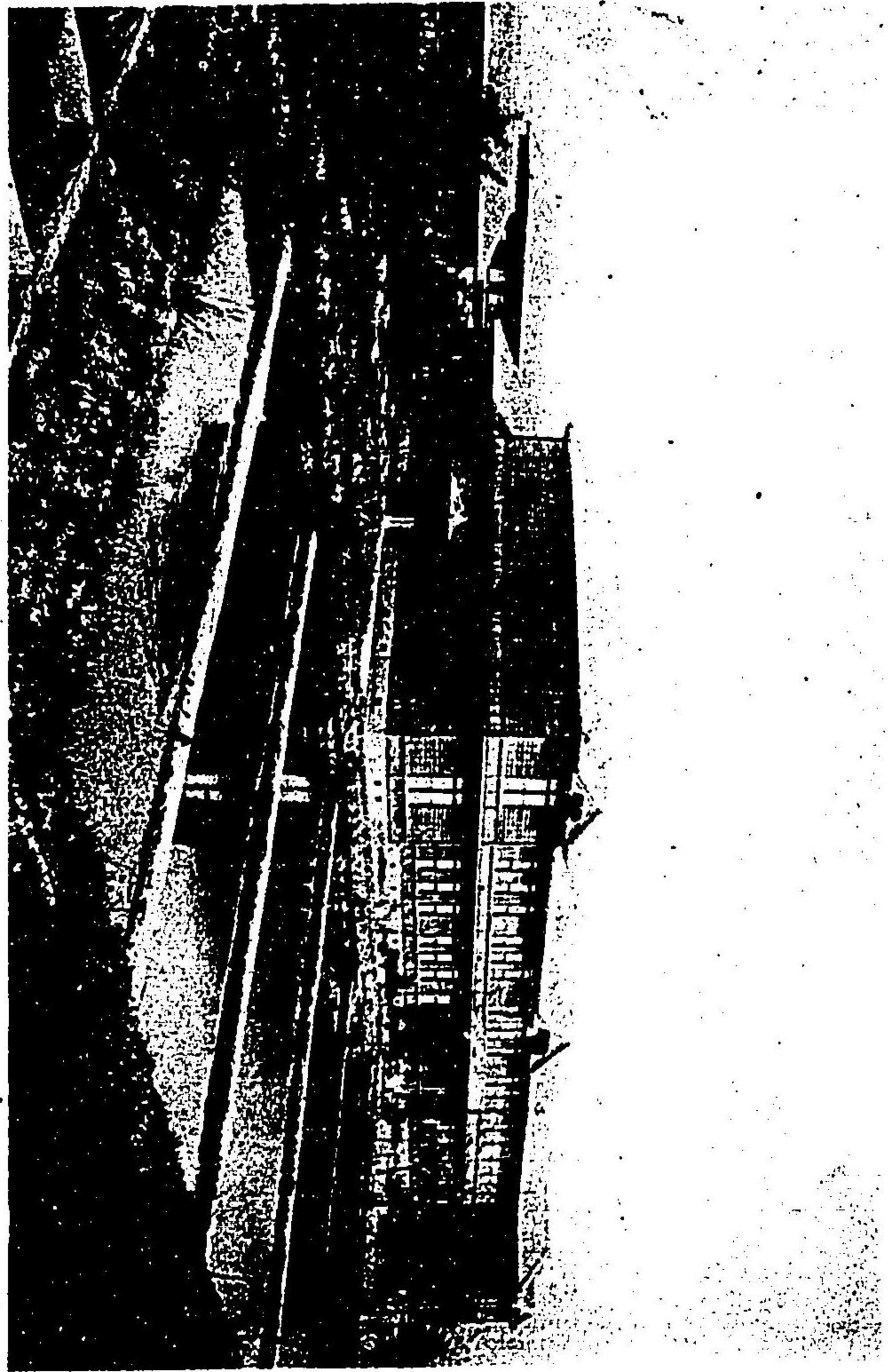
り運相横瀬市間影嵐光波し位に端南東の郡見速  
すの經客浴時四くなるざらお泉温所る到

景全町府別

獄地池の血

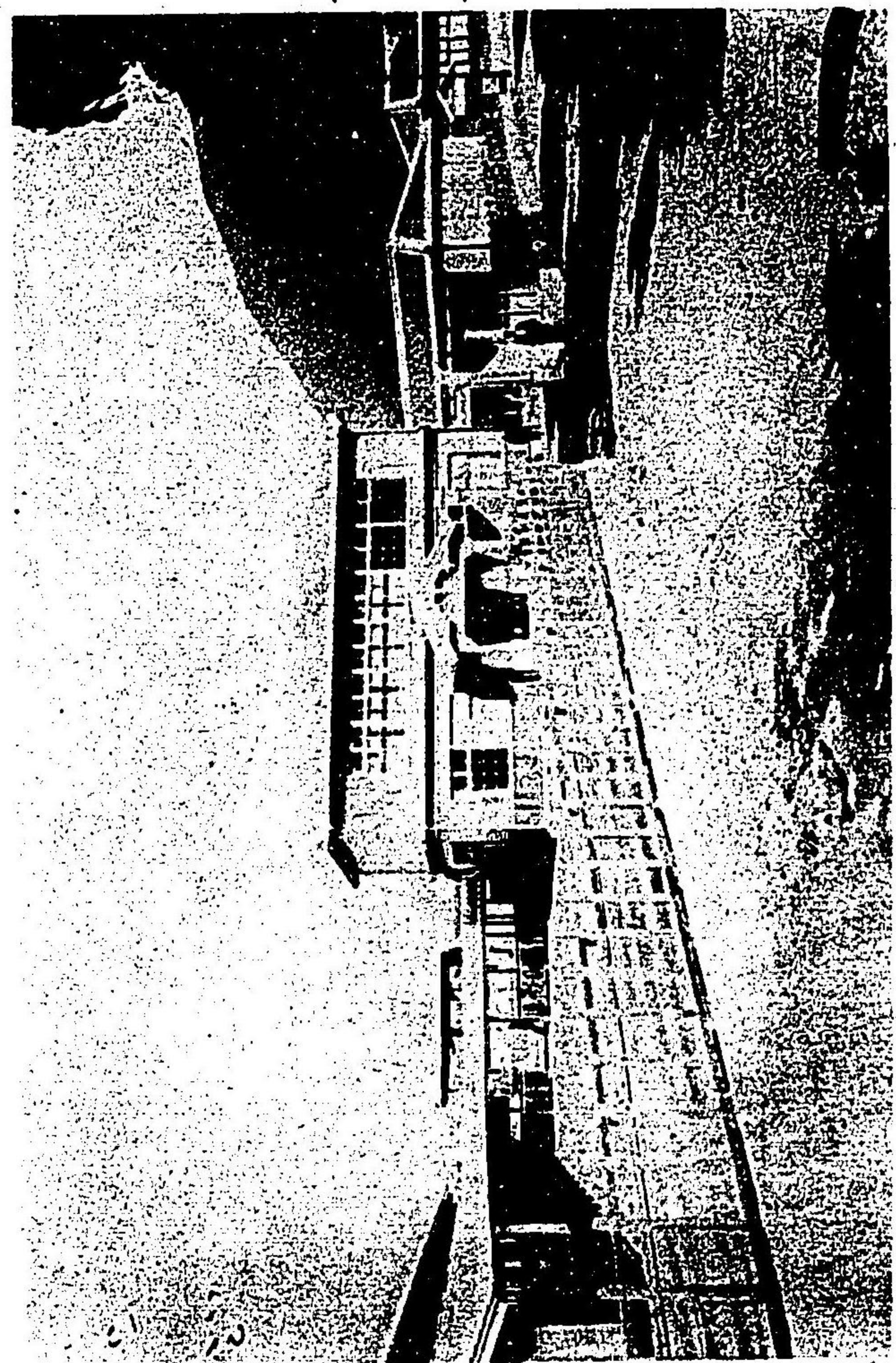


絶冷絶凄す出河を湯熱の色朱々深嵐氣許丈十徑りありに町越御郡見速



りおに地の勝形濱海の町越御郡見連  
す風に築新の年九十三治明は舎校現

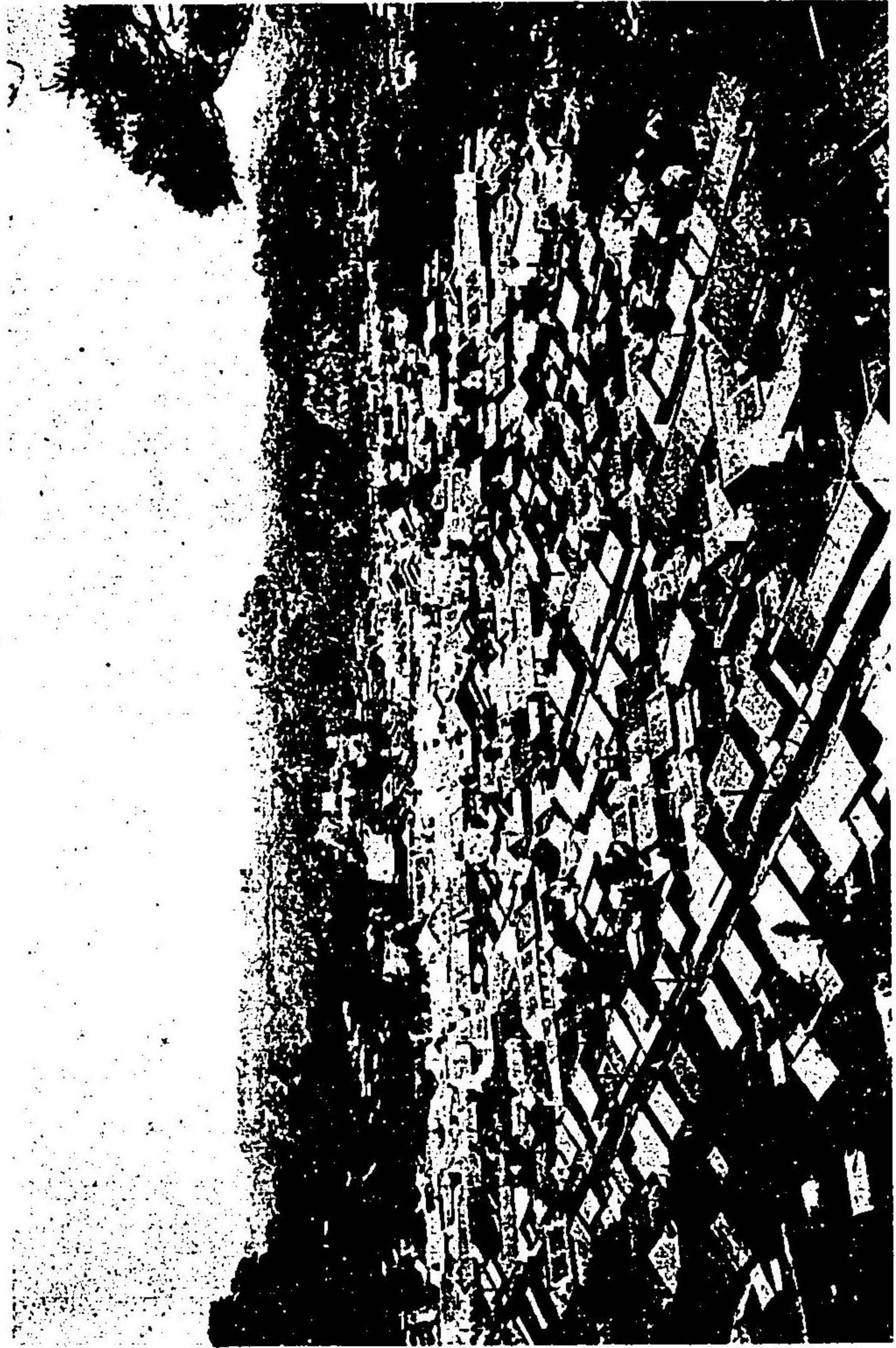
校 學 慶 立 縣



ららせ所と敷有園全美の風校てして立創の年五十三治明

校 學 弟 徒 業 工 立 町 府 別

古時安無雙之稱せられし城跡の市に於て  
直入郡の南端中川氏の城跡に在りて



京都町田竹

# 大分縣案内目次

## 前編

第一章	位置地勢	.....	一
第二章	沿革	.....	一
第三章	行政區劃	縣治沿革 官衙公署	二
第四章	財政	財政一斑	三
第五章	交通	陸路 鐵道 水運 通信	三
第六章	農業	農業一斑 農事講習所 農會 耕地整理 土地改良 米穀檢査 園藝 茶業	三
第七章	蠶業	蠶業一斑 沿革 桑園 飼育	五
第八章	畜産業	畜産一斑	八
第九章	林業	林業一斑 林產物 造林 模範林	九
第十章	水産業	水産一斑 水産試驗場 水産教育 遠洋漁業 水産組合	一一
第十一章	工業	工業一斑 青花瓷 酒造 醬油 抄紙 製絲 織物 木蠟 雜業	一二
第十二章	鑛業	鑛業一斑	一四
第十三章	商業	銀行 會社 市場 組合 物産陳列場	一八
第十四章	社寺	神社 寺院 教會	二〇

第十五章	教育	教育一班 <small>  </small> 小學校 <small>  </small> 私立學校 <small>  </small> 教育會 <small>  </small> 青年會	二〇
第十六章	兵事	陸軍 <small>  </small> 海軍 <small>  </small> 大分縣尙武會	二二
第十七章	衛生	醫師 <small>  </small> 病院 <small>  </small> 醫會	二三
第十八章	人物	政績家 <small>  </small> 碩儒 <small>  </small> 畫家 <small>  </small> 高僧 <small>  </small> 勤王家 <small>  </small> 軍人 <small>  </small> 孝子貞婦義僕   實業家	二四

後編

第一章	西國東郡	二七	
第二章	東國東郡	二八	
第三章	速見郡	附溫泉案内	三〇
第四章	大分郡	三五	
第五章	北海部郡	三九	
第六章	南海部郡	四二	
第七章	大野郡	四三	
第八章	直入郡	四五	
第九章	玖珠郡	四八	
第十章	日田郡	五〇	
第十一章	下毛郡	附耶馬溪案内	五一
第十二章	宇佐郡	五五	

# 大分縣案内

前編

## 第一章 位置地勢

我が大分縣は九州島の東北に在りて東及南北の一部は海に瀕し西及び南北の一部は熊本宮崎福岡の三縣に境す幅員凡東西三十里南北二十二里に及び其の面積四百九方里ありて戸數十五萬四千六百八十八萬を有す地勢西南山間部は山嶽重疊して氣候寒冷に交通不便なれども東北沿海は美田沃野に富み氣候溫和にして交通亦頗る開けたり山岳の最高なるは九重山にして大船祖母之に次ぐ山布山は豊後富士の名著く鶴見山は溫泉を湧出するを以て開ゆ川流には彼の筑紫次郎の上流なる三隈川あれども縣下に於ける流程の最長なるは大野川にして凡二十里に達す山國川は上流に耶馬溪の名勝あるを以て其の名夙に著る瀑布亦少からず就中沈墮椎谷曉嵐等或は雄大を以て優り或は凄壯を以て誇る平野の最大なるものは豊前平野にして山國驛館二川の灌域に當り人口の稠密なること此の地方を縣下の首位とす大分平野大野川沿岸地方の如きも運輸交通の便宜しく人文發達に資する事多し其他野尾原日出生野鶴見野北方野阿蘇野地藏野等は原野の廣濶なるものにして嶺島大入島大島等は島嶼の大なるものとす

## 第二章 沿革

往古單に豊の國と稱せしが文武帝の世に前後二國に分割せらる豊後は中古大神姓の氏族繁榮し

壽永中緒方白杵の諸士著る平氏滅亡後は大友能直鎮西奉行に任じ豊後の守護職となり子孫相繼ぎて九州の雄たりしが四百年後義統に至り秀吉の爲に封國を沒收せらる爾後中津、岡、白杵、杵築、府内、日出、佐伯、森の諸藩、熊本、延岡、島原の領地幕府領、枝領、宇佐神領等各地に散在し政治統一を缺き情習自ら相異なるに至れり而して維新後明治四年全國大小の藩を廢し縣を置かれしと雖も徒らに其名を換ふるに過ぎざりしが尋て新設の諸縣を廢し豊後一國を大分縣となし縣廳を大分町の府内城址に置き同九年下毛宇佐の二郡を福岡縣より割きて大分縣に編入し以て現今に至る

### 第三章 行政區劃

#### 一、縣治沿革

明治四年縣廳を大分町に置かれ翌五年高田、杵築、日出、鶴崎、白杵、佐伯、岡、久住、森、日田の十ヶ所に支廳を置きしが同年六月之を廢して八郡を劃して八大區と爲し毎區會所を置き事務を處辨す其位置は高田、別府、大分、宮河内、犬飼、竹田、森、日田なり六年之を廢して各大區に小區を劃し用務所を置き區、戶、保長をして事務を處辨せしむ八年町村とし郡長町村長を置く十七年従前の町村とす二十四年郡制及び縣制を施行せられ其後二三町村の廢置分合あり

置縣以來長官の更迭せるもの森下景端、香川眞一、西村亮吉、岩崎小二郎、山田爲暄、平山靖彦、杉本重遠、押川則吉、鈴木定直、大久保利武、木下周一、小倉久、千葉貞幹(現任)の十三回其の任期の最も長かりしは西村氏の十一年七月にして最も短かりしは木下氏の八日なりとす

#### 一、官衙公署

大分縣廳は大分町舊府内城址に在り、郡役所は西國東郡は高田町に東國

東郡は國東町に速見郡は日出町に大分郡は大分町に北海部郡は白杵町に南海部郡は佐伯町に大野郡は三重町に直入郡は竹田町に玖珠郡は森町に日田郡は日田町に下毛郡は中津町に宇佐郡は四日市町にありて警察署は郡役所と同一地に設けある外杵築町、別府町、鶴崎町、佐賀關町、犬飼町、久住村、長洲町の七ヶ所に分署ありて警察區域を十九に分てり

大分地方裁判所は大分町に在りて大分縣一圓を管轄し中津町日田町に支部あり區裁判所は高田杵築、大分、白杵、佐伯、竹田、日田、中津の八町にあり大分監獄は大分町に在りて中津町に分監を置けり

稅務署は郡役所と同一地に設け小林區署は佐伯町、白杵町、宇目村、竹田町、大分町、森町、日田町、中津町の八ヶ所に在りて熊本大林區署の管轄に屬す

大分測候所は去二十年の創設にして縣廳内に在りしが四十一年一月大分市街の東端に移轉せり其の他大分町に大分聯隊區司令部中津町に中津聯隊區司令部あり

### 第四章 財政

一、財政一斑 本縣の財政は年を逐て著しく膨脹し十五六年前は僅に四拾餘萬圓を以て足れりとせるもの今は百拾七萬餘圓に上れり以て其の趨勢の一斑を知るべきなり

### 第五章 交通

一、陸路 縣外に通ずる陸路は大分を基點とし別府、日出、宇佐、四日市、中津を経て福岡縣に入る二十里餘の國道を以て最も交通頻繁なりとす之を豊前街道と云ふ大分野津市間約九

里の國道は即日向街道にして延岡に達す此の道路は馬車に倚るを便とす大分に起り竹田、菅生を経て熊本縣に到る縣道は腕車又は馬車を驅るべし伊豫街道は大分より鶴崎を経て佐賀關に至り海路愛媛縣に通ず里程七里平道坦々として車上夢を載すべし筑前街道は大分より川西、戸畑、日田の諸驛を経て筑前國境に達し日山より分岐して筑後の國境に到るを筑後街道とす共に馬車を便とす大分日田間約二十二里なり

一、鐵道　は豊前街道中立石驛より行くこと二里餘北馬城村より北に分岐せる縣道に隨て行程二里長洲に至り驛館川に架せる長橋を渡りて直に九州鐵道の終點たる宇佐驛に出づ此より中津驛までの十一哩を以て本縣既設鐵道とす三十五年九鐵會社は其終點たる宇佐驛より大分町に至る線路延長の議を決し經營に着手せしが國有となりてよりは鐵道廳に於て其の事業を繼續し目下工事進捗中なれば長蛇黒煙を吐いて茵江の涯を遶るの日遠きにあらざるべし電氣鐵道は四極山の麓を縫ふて大分別府間六哩に敷設せらる長汀曲浦風色の美を極め風光車窓を歴して爽氣人に迫るものあり

一、水運　港灣の良好なるものは佐賀關、臼杵、佐伯、大分、別府、日出、守江、竹田津にして長洲、中津亦要樞なり航路は阪神關門四國日向等にして縣下二十六港より輸出する貨物價額は壹千參百貳拾九萬壹千五百圓輸入に超過すること貳百九拾四萬七千九百圓なり河川にして舟楫の便あるもの、内大野川は直入大野兩郡貨物の輸送に便し三隈川は日田郡の貨物を兩筑に輸出す其他耶馬溪澗なる山國川の上流を利用して木材を流下せしむるは特殊の水運にして頗る奇觀なり

一、通信　本縣は鐵道の哩數少きにも拘らず著しく郵便電信の發達を示せり郵便局一百八にして函數一千百七電信取扱局數四十六切手賣捌所一千百十三あり電信線路延長百四十三里電信線條延長五百八十五里發信數三十四萬九千着信數三十九萬四千を算す而して官廳電話二百三十九哩外に公衆電話の設あり大分別府鶴崎及臼杵は既に開始し中津日出日田亦輒近開始されんとす

## 第六章 農業

一、農業一斑　大野川山國川驛館川の流域なる大分、大野及び豊前北部の平野を除く外山脈所々に起伏して一望際涯なきの地を見ずと雖も土壤肥沃氣候溫暖なるが故に水隈水澳到る所物産豐饒所謂豐國の名碩田の稱に背かず縣下十五萬三千六百二十五戸、八十七萬九千九百四十五人の内農業に従事するもの十二萬八千七百十九戸、四十七萬二千四百五十人にして即ち戸に八割強人口に六割弱を占む此等農業者は約五萬町歩の水田と殆んど同數の畑とを耕して米、麥、粟、大豆、甘藷の五種を主作す其他七島蘭煙草等の特有作物を合して一ヶ年貳千五百七拾七萬六千參百四拾貳圓を得以て本縣が如何に農業に重きを置けるかを知るべきなり是に於てか去る四十年本縣農事獎勵方針を定め農事講習生の養成、耕地整理及土地改良、作物品種の改良、普及選種法の改良、苗代の改良、病蟲害驅除豫防、稻作正條植の獎勵、水田除草器使用獎勵、肥料の施用に關する改良、綠肥栽培及堆肥の改良、麥作除草の獎勵、收穫期稻の乾燥、七島蘭の改良、副業に關する獎勵、産業組合の獎勵の十五項を公表し當業者に縣の方針計畫の存する處を詳知せしめ官民一致協力以て之が遂行を期せり

一、農事講習所　農事の改良獎勵に關する施設計畫一にして足らずと雖も當業者の智能

を啓發し一縣勸業の方針を了解せしめ且其の手段方法を知悉せしむるを以て最も急要とす即ち本縣は昨四十一年度より農事獎勵に關する基本施設として農事講習所を大分町に設立し以て其の中樞機關として農の本業及び諸種の副業に關する知識技能の上進普及を圖り之に伴ふ各種の獎勵的設施に着手し普通農事、養蠶、畜産、林業等に付き長期短期の講習を開始し今後十年間に各町村農事獎勵の任に當らしむべきもの即ち長期講習生を四百名内外又短期講習を受けしめたる良農二萬人内外を養成し以て斯業の効果を全ふせんことを期しつゝあり

一、農會 本縣農會の創立は明治二十八年にして爾來十五年の間常設技術員又は専門の講師を聘し農事講習會を開設したること數百回の多きに及び又各郡に農事試驗場、排水模範田、米麥原種田を設け或は栽桑獎勵費下附規則、賞旗授與規程、農事功勞者表彰規程等を設け専ら斯業の獎勵に努む郡農會に至りては米麥改良上に於ける實地指導は言を俟たず講習講話其他各種品評會の開催及び蠶業獎勵に盡し農界の爲めに獻げたる功績鮮少ならず單り町村農會にありては未だ幼稚の憾なきにあらざるも近時漸く活動の緒を開き事業の經營風俗の改良勤儉貯蓄産業組合の設置等見るべきもの少なからざるに至れり

一、耕地整理土地改良 本縣耕地五萬一千餘町歩の中濕田及用水不足田二萬二千餘町歩に及ぶ之が整理改良を計るは最も緊要の事に屬す是に於て明治三十四年以來縣農會郡農會等をして本事業の獎勵に努せしめ翌三十五年度に至り五百四ヶ所、五百二十七町餘歩の工事を施行せしが同年十二月以降は専ら縣の事業として今後十ヶ年間に毎年二千百八十町歩宛を整理するを第一期計畫とし殘餘の三萬町歩の改良を第二期計畫とし着々事業の進捗中なり  
茲に附記すべきは本縣水利事業なり大分郡の初瀬井路、野津原三渠、明治水路、大野郡の若宮井

路、緒方上下井路、日田郡の大井手、新井手、直入郡の音無井路、下毛郡の大井手堰、荒瀬井堰、宇佐郡の平田井路、廣瀬井堰の如きは著名の水利工事にして古く千年以前に夙に其の端を發し數百年來著しく發達を遂げたり其他潺湲たる溪水猶能く溝渠灌溉の利あり此等は皆先人の至誠苦心の偉績ならざるはなく萬頃の美田年毎に嘉穀を登りて坐るに當年の徳風を語るに似たり

一、米穀検査 従前貢米の制度一たび廢せられて以來乾燥調製俵裝樹量等年を追ふて亂雜に流れ明治二十三年の頃は殆ど其の頂上に達し復昔日の觀を止めず此に於て長洲港を始め宇佐郡の米商相謀り十三年粗惡米防止規約なるものを設く是れ實に本縣に於ける米穀改良検査の濫觴なり爾來各地に組合成立し或は取締規則の發布等幾多の變遷を経て三十四年米穀検査規則を發布し斷然縣の事業として勵行の方針を採れり抑も米穀は本縣第一の物産にして之が聲價の如何は直に一縣經濟上に至大の關係を有す本規則施行後其の結果良好にして今や縣下を通じ莫大の利益を算するに至りしは蓋し故なきにあらざるなり

一、園藝 本縣は果樹園藝未だ甚だ盛ならずと雖も津組蜜柑は享保年間より既に藩主の獎勵に依り毎年産額五百萬貫を下らず梨は山香産を以て優良とす明治十八年初めて栽培したるものなれども成績良好にして關門に販路を開けり此二種は孰れも芳香淡味なり、柿は竹田、佐伯に産出多く特に耶馬溪奈柿は風味甘美なり

生姜は速見郡横灘地方に産出し販路は主に北國にして阪神關門之に次ぐ落花生は西國東郡の砂地に多く西瓜は下毛、宇佐、西國東の平坦部に産す牛蒡は本縣蔬菜中最も著名なるものにして大分南海部、下毛に産す就中大分郡高田村に産するものは高田牛蒡の稱あり栽培盛なり

### 一、茶業

本縣山間部には到る所天然茶を産せざるなく原料甚だ豊富にして特に日田郡を



以て主産地とし其の産額全縣下の十分の六を占む明治初年より當局者に於て保護獎勵の方針を執り最初紅茶製造に失敗してより綠茶の製造となり取締規則を發布し二十七年以降は縣費の補助に依りて十五ヶ所の製茶傳習所を設置し本科卒業業者百二十九名別科卒業業者六百八十名を出し隨て製品噸に面目を改めたり作付反別七百三十八町歩製造者五萬一千五百二十二戸製造額十萬五千六百五貫なり

### 第七章 蠶業

一、蠶業一斑 本縣は九州に於ける蠶業の先進地にして其の起源頗る遠く爾來綿々傳承して明治の初年に至り當局者の周到なる獎勵と當業者の熱心なる奮興と相俟つて頓に長足の進歩を爲し今や年々の産繭二萬五千餘石、價額八拾餘萬圓に達す山來本縣は氣候風土頗る溫和にして山青く水白く自然の形勢能く斯業に適すれば養蠶に製絲に發達の餘地猶ほ綽々たり

一、沿革 往古の事蹟は杳として知るを得ざれども文化中岡藩に於て信州より人を聘して領内長湯村に蠶兒飼育所を設けたる事あり以來漸く意を蠶桑に注ぎ藩士の邸宅には必桑樹を植ゑる婦女をして之を營ましむるに至れり鴻儒三浦梅園帆足萬里の如き詩に文に之を説きて一般の思想を喚起せるもの少からず置縣の首め鶴崎町に蠶業試驗場を創設し十五年蠶業原社の設置あり二十年蠶絲業組合起り二十一年蠶業講習所の創立を見續て短期傳習所各地に勃興し二十七年の頃には産繭額一萬四千餘石に達し二十九年より縣費を以て蠶種の検査を勵行し三十年蠶絲業組合廢せられて蠶絲同業組合起り三十三年蠶業獎勵費下附規程を設け三十四年自家用蠶種取締規則及蠶病豫防に關する諸規程を設くる等斯業の改良發達を圖り以て今日の盛況に至れるなり

一、桑園 一般に地味肥沃なるを以て桑園の良好なるもの各地に多く特に大野川下流沿岸一帯を最とし驛館川沿岸山國川下流沿岸三隈川の沿岸玖珠大野直入平原の大部分之に次ぐ多くは根刈仕立にして中刈立通等は甚少く種類は鼠返最も多く細枝之に次ぐ明治十五年の頃宇佐郡驛館村に於て桑樹萎縮病を發見し爾後續々各地に發生し二十五六年の交最も猖獗を極め蠶業の先進地にして産額的首班たりし宇佐下毛の地方は爲めに斯業の發達を妨げられ漸次衰頹の否運に陥るの打撃を蒙れり然りと雖二十七年以來は病害甚しからずして逐年發達の氣運に趨けり

一、飼育 春蠶の飼育法は主に清溫育と稱へて清涼育と溫暖育とを折衷したるものなり蠶具は俗言「バラ座」と稱する竹製圓座籠にして本縣蠶業の泰斗たる小野氏の發明に係り全國稀有の輕便具なり明治十六年當業者所藏の蠶種を大分町蠶業原社に集めて検査を行ひたるを始めて年々相繼ぎ二十年に至り農商務省令に基き縣廳に於て検査を爲し二十九年更に縣令を發して組合の検査を廢して縣の事業に移し三十一年以後は蠶種検査法に據り之を勵行せり

蠶種は始め殆ど青熟の一種なりしが其の後時好の又昔に傾きし以來滔々として之に趨き今や春蠶種の過半は又昔なり夏蠶は大草、白龍等なり秋蠶は從來生種と稱する不越年種なりしが風穴の發見せられし後は黒種と稱する越年風穴種を製造するに至り斯業界に一進歩を來せり

### 第八章 畜産業

一、畜産一斑 我豐國は神代に於て最も早く開け隨て畜産業進歩し繁殖盛にして改良法の發達せしことは縣下各所に市場の設けありて今猶ほ繼續し中には千餘年を経たる者さへあるに見るも亦明なり幕政時代は岡藩を初め各藩頻りに牧場を設け産牛の發達獎勵に努めたり馬に

至りては古き基因の微證なれども佐賀關の牧場に望月の駿良を出し宇治川戦に依りて其の名著はる従前各藩幕府に對し武備擴張の名に憚り牛の如く力を用ゐざりしが如し維新後監督指導弛廢し種々の障害恐慌交も起りて甚だ衰微を來せしが明治六年内務省の畜産業を鼓吹するに至り本縣亦銳意之が發達を圖り或は取締規則の制定或は獸醫の養成、種牡牛馬の輸入、畜産獎勵費の支出等施設經營に努めしが日清戦後は偶々一般に斯業の急進を感ず爲に牛馬の價格亦昇騰せしかば頓に活氣を増加し三十一年には熊本種馬支所を菅生村に設立し爾來連年擴張して縣内各所に増設を見るに至り尋て産牛馬組合會の組織あり而して日露戦役後は益斯業の緊要を訴へ馬政局の設置に伴ひ牝馬の貸下、種畜場の新設、技師聘用、畜産の講話指導等官民一致其改良發達を圖れり山來本縣は牧場として設備全きもの甚だ尠し之れ到る所原野に富み隨時放飼の便あるに因るなるべし三十八年政府の規程を設け濠州産牝馬を貸附するに方り本縣亦其の二十七頭の貸附と鹵獲牝馬三頭の下附を受けたるを以て種畜場を新設し三十九年地を久住村の原野に相して厩舎及事務所を建設せり其他玖珠郡の有志相圖り明治二十三年千町蕪田に設けたる牧場及び玖珠郡萬年村梅木重雄の同村山浦に設けたる牧場は共に成績良好なり本縣現在種牛百六十二、種馬五十七、家畜牛七萬百五十六、家畜馬四萬九千八百九十三、豚千七百七十二、山羊二百四十一、屠殺牛馬豚合計三千二百四十五頭なり

豊後には古來牛馬市あり其の山來極めて遠く現今開市のもの猶ほ十二ヶ所あり就中杵築若宮市北海部郡三島神社の卯の市、三重町の三重の市、北杵築村の五反田の市、西國東郡西都甲村の都甲の市等有名なり多くは郷村の祭日を以て開市日と定む此等の方法に依り商人の手を経て盛に備中、備後を初め遠く京阪四國の地方へ販路を開けり

## 第九章 林業

一、林業一斑 往時各藩分立從て林政の方法各異にして盛衰また一ならずりしと雖も山林に意を注ぎたる事跡明かなり就中日田天領には代官鹽谷某ありて造林を獎勵し臼杵には老臣村瀬某ありて藩是を殖林の上に定め岡藩は有名の經世家熊澤藩山を聘し林政を理めたる等一般の狀勢斯くの如くなりしを以て百年斧鉞を入れざる森林到る所に存在せしが一朝大政の變革に遭遇して林政甚だ弛廢し個人の有に歸したるものは自由伐採の權を得て自然濫伐の弊に陥り而して世運の進歩は益木材の需用を増加し價格の昇騰底止する所なからんとす是に於て明治二十五年林産蕃殖獎勵費下附規則を發布し三十三年度以降林業巡回教師を置き各地に就て指導の任に當らしめ三十五年縣立農林學校を創設し或は模範林を設置する等獎勵劃策する所尠からざれば林業の發達期して待べきなり

一、林産物 本縣の全面積は四百九方里(六十二萬有餘町步)にして其の内約十萬町步の耕地、六千餘町步の宅地及び河川溝渠道路堤塘等の面積を除く外は殆んど山林原野によりて占有せらる然るに土地臺帳に登録せる所は社寺有、公有、私有を合し山林五萬有餘町步(外に八萬七千町步の國有林ありと雖も除外す)原野六萬千有餘町步に過ぎず而も山林原野の實側面積は臺帳に比すれば二倍乃至五倍なるを普通とするが故に今假りに之を三倍とすれば本縣の山林面積十五萬町步以上、原野十八萬町步を超ゆ之に産する主なる用材樹木は杉、扁柏、松、樅、樟、櫟、栗、櫻等にして概計八十六萬餘、此尺<sup>レ</sup>價額百八拾八萬有餘圓、薪炭材百七萬餘圓價額百七拾貳萬有餘圓竹材百二十五萬餘束價額拾貳萬有餘圓木炭椎茸竹皮楡皮其他副産物大凡九拾八萬餘

圓總計四百七拾萬圓に上れり

一、造林 東國東郡豊崎村には明治十六七年の頃既に學校基本林を設置し第四回内國勸業博覽會の賞を受く其他西國東郡草地村、玖珠郡南山田村、大野郡三重町、同郡重岡村、大分郡吉野村、同郡谷村等には疾くに基本林の設けありて成績良好なり近來亦各所に基本林を見るに至れり日田、玖珠、下毛の三郡中に點在する私有林にして其の發達實に驚くべきものあり特に日田郡の如きは數百年來著名の林産地として造林の方法自ら一種の特色を有し他の模範たるもの尠からず

一、模範林 明治三十五年模範林を設定せり模範林は一般に斯業の模範を示すと共に縣の基本財産たるの價値を有するものなるを以て徒らに彼の試験林の如き經濟に伴はざるの施設は斷じて之を避け實益より打算して充分の效果あらしむる方針にて經費總額拾六萬圓を以て杉、櫟の二種を造林し杉は五十ヶ年を期し年々二十五町歩宛を標は十五ヶ年を期して年々十五町歩宛造林を計劃し既に二百八十町歩の造林を了して其の成績良好なり

其他熊本大林區署は樹苗圃を數ヶ所に設置し又郡農會の樹苗を養成して有志者に頒つあり殖樹獎勵金下附規程を設く等頻りに殖林の發達を促しつゝあり

## 第十章 水産業

一、水産一斑 縣下十二郡中海に瀕するもの八郡北に周防灘を控へ東は硫黃灘に臨み南方一帶豊後水道に面し外には島嶼の基布せるあり内には岬灣の參差たるありて沿海線の長百八十里其の間大小の河川集注し大魚細鱗隨所に游息し天惠の寶藏漁りて盡くる時なじ且つ沿岸良

港に乏しからず以て幾多の名邑漁村を形成し實に水産地として天與の好位を占む況んや本縣水産業の由來する所遠く神代に出るをや速吸澗頭水深うして浪に千古の翠色を湛へ忠良にして勇悍なる彼の椎根彦の精血は代々の子孫に繼承せられて遺業年と共に隆盛を加へ今や天下の人をして水産と大分縣とを聯想せしむるに至れるもの決して偶然にあらざるなり

現今漁戸一萬五千九百二十二、漁人四萬二千八百九十一、漁船一萬一千百三十一、漁獲物製造物の價額合計二百萬八千圓にして實に本縣重要物産中米麥酒の次位にあり

一、水産試驗場 本縣水産業の現況は上叙の如くなるも翻て漁具、漁法、製造、養殖の方法等を窺へば幾多改良擴張を要すべきものあり益努めて止まずんば收利の倍獲敢て至難にあらざるべし是に於てか明治二十七年以來年々若干の縣費を水産協會に下附し力を奨励に盡し、が三十三年より斷然之を廢し更に機關を擴張して水産試驗場を縣廳内に設置し後之を佐賀關に移して新に工事を起し設備を完整せり現今年經費壹萬六百拾八圓斯業の振興に寄與する所大なり

一、水産教育 本縣に於ける水産教育は明治二十七年縣立農學校を臼杵町に創設して之に水産科を置けるを初めとし大分縣水産協會が特に技術者を常置して縣下各地に短期講習會を開き漁撈製造養殖の三科を授けて切に之が發達を計りたるが如き最も顯著なるものにして三十年協會解散の後には縣立水産試驗場に於て其の事業を繼續し以て今日に至る

一、遠洋漁業 本縣の遠洋漁業とは即ち朝鮮海出漁の謂にして安政年間其の端を發す勇悍なる佐賀關漁民仲家橋本の二氏初め小鱈を漁獲する利器を發明せしも釣漁者の嫉視を厝とせず決然孤舟遠征の壯圖を企てたり爾來各縣の漁民靡然として之に倣ひ今日に至れりされば我國

に於ける遠洋漁業の率先は我縣にありと云ふも誣言にあらざるべし明治元年の頃は佐賀關より出漁するもの僅に十餘艘なりしも幾もなく海外旅行の禁を解かれ益發達して今日の隆盛を見るに至る次で附近の津浦之に倣ひ長洲町の漁民は明治二十四年に大入島の漁民は二十八年に何れも好結果を得其他各村各浦年を逐ふて多きを加へ今や漁船五百二艘漁人二千四百二十人を算するに至る而して本縣に於て遠洋漁業に使用する漁船は特種の構造にして遭難の憂少く漁撈に至便なり是亦仲家橋本二氏に依て發明せらる大分縣改良漁船の名斯界に高し

一、水産組合 水産業に關する組合は明治十九年に其の端を起し一再の改革を経て三十五年今の水産組合の成立を見る即ち漁撈製造販賣の各業を打て一團となしたるものにて水産の繁殖保護、漁具漁法の改良、製造法の改良、漁場の探見擴張、販賣販路の擴張、漁業上の安寧保護、營業上の弊害矯正、漁村の維持及び共同貯蓄の奨励、漁獲物の統計及調査、組合の維持良慣美風の維持、水産に關する講習又は講習會の開設等を主なる事業とす

## 第十一章 工業

一、工業一斑 青花蕙、製絲、織物、活版、製板、酒造、醬油、抄紙、木蠟、精米等の工場千差萬別枚擧に遑あらずと雖も工場法に準すべきは四十四個を數ふるに過ぎず就中電氣を原動とせるは僅に四個所なり鐘ヶ淵紡績株式會社中津支店は本縣中第一の工場にして豊後電氣鐵道株式會社は其の創始獨り本縣下に嚆矢たるのみならず亦全國電氣鐵道事業の先鞭たり而して日田及び竹田水電株式會社は三十三年の創立に係り電燈、電力販賣、電氣機械器具の販賣、製材、製米等電力應用の諸工業を經營す山來本縣は飛瀑の壯觀なるもの多く雌雄雙沈墮、東西

兩椎谷の如き恐らく天下稀有と稱すべければ地僻なりと雖も斯業經營には將來有望と云ふべく已に沈墮の瀑布は豊後電氣發電の源泉となり其他の工場は多く汽機を用ひ水車之に次ぐ

一、青花蕙 七島蘭草の我豊後に傳はりしは今を距ること二百三十餘年前寛文三年にして當時府内(今の大分)の橋本某なるもの千辛萬苦して琉球より一朵の苗を移植せしに創る而して日出藩主亦見る所あり率先蘭草の繁殖を圖り封内に普く試植せしめ指導誘掖甚だ勉めたるを以て漸次四隣に普及して今日あるに至れり廢藩後取締法の解除せられしより忽ち粗製濫造の弊に陥り種々挽回の策を講ずるものありしも其の效少なく遂に明治十七年青蕙業取締規則を發布し二十六年更に青花蕙業組合取締規則を發布し専ら規約の勵行を促し爲めに品位上進産額亦昇騰せり三十五年新に法律によりて同業組合組織成りしも事業の發展及改良上遺憾の點尠からず遂に検査を縣事業に移し専ら取締検査を勵行し組合の生産奨励と共に漸次改善の効果を奏せり

青花蕙は近來の創始に係ると雖も海外輸出品として貿易市場に盛名を博し外人の嗜好に適せるを以て頗る長足の進歩をなし二十三年の交より販路大に擴りしが幾もなく競争賣買の弊を生じ其の結果粗製濫造となれり是に於て二十八年度より縣費の補助を組合に下附し三十三年度は特に販路視察費を補助し支那産地の實況を調査し三十四年度に於て改良器械購入費を補助する等極力改良を企圖せるも貿易品の通性として一盛一衰常ならざるは甚だ遺憾とする所にして山來當業者は青花蕙兼營なれば市價の高下に伴ひ其の價格の昇騰せるものに偏業するの傾あり爲に青花蕙は未だ充分の發達を見る能はず

最近調査によれば七島蘭作付反別一千三百七十五町二反産額二百二十二萬七千七百七十七貫目に

して農表の數量は五百十二萬八千四百二枚價額百七拾參萬八千九百八拾七圓なり此等の青花蒔は二萬五百十五戸の當業者に依て製造せられ五百餘人の仲買人と百十人の輸出商人に依り取扱はる而して近來實業熱心家にして備後表の製造を創むるものあり成績良好にして漸次普及せんとす

一、酒造 酒類は本縣に於て米に次ぐ主要物産にして釀造高九萬二千石、價額四百拾六萬七千圓に上れり木業に付ては去る十七年中各郡に組合を設置し縣に聯合會を設け營業上の弊害を矯正し品質改善を計りつゝ、ありしが三十三年勅令の公布に依り更に之が改造を爲し試験所を各郡に設け品質評會を開く等逐年改善の效果顯著なるものあり

一、醬油 醬油は本縣の一物産にして造石高三萬六千六百十二石價額七拾貳萬貳千餘圓に及ぶ去三十七年縣下を通じたる一組合を設け營業の弊害を矯正し品質の改良を計り或は視察員を派遣し或は試験場を設け或は講習會品質評會を開く等改善の實を擧ぐるに汲々とし益進進を圖れり

一、抄紙 抄紙の原料たる楮皮は縣下到處産出せざるはなく夙に優品を出して日田判紙竹田判紙、佐伯判紙、宇目紙等の如き名聲噴々たるもの少からず廣く京阪に販路を有したりしも廢藩後全く羈束を脱すると共に粗製濫造の弊起りしが其の後傳習所の開設あり巡回教師を置くあり着々改良進歩の域に進めり産出額約十五萬緡價額拾六萬圓なり

一、製絲 明治初年以來當局者と當業者と共に一致の歩調を以て或は模範女工の養成或は蠶業原社の創立製絲の検査等専心改良發達を圖り大に聲價を發揚せり二十四五年以來坐纒製絲法廢れて機械製絲法起り豊中製絲場及び其の柳ヶ浦分工場、大野、大分、日出 直入の各製絲

所を始めとし縣内十餘個所に及びり山來製絲家の最も苦心する所は佳良なる用水の得難きに在り本縣幸に山紫水明の逸境を領して涓々玉の如き清泉隨處に湧出す洵に天授の製絲地と云ふべく後來の盛運期して待つべきなり縣下を通じて製絲數量一萬一千九百五十二貫目に達す

翻て綿絲界を一瞥せんか未だ以て充分の進歩と稱する能はざれども單り中津に一の紡績會社あり夙に斯界に好評を博し製造高四十八萬七千三百六貫目に達す

一、織物 絹織物は明治七年宇佐郡に辛島國華校の創立ありしを起原とす後大分町に移轉し生徒の養成に勉む木綿織物中、中津緋及び臼杵保多織の二種は其の起原頗る遠く中津は文化年間臼杵は百餘年前に在り孰れも藩士の妻女の手に創始せられ今猶地方の物産として名あり其の他佐伯地方の木綿織タル竝に大分地方の縮木綿裏木綿及び北海道郡北部の緋縮物等近時著しく發展し廣く販路を有するに至れり産出額絹織物各種合計一千四百十三反、價額壹萬壹千五百拾九圓、絹綿交織三百八十九反、價格壹千貳百四拾圓、綿織物六萬四千四百三十四反、價額參萬壹千貳百五拾圓、麻織物四百四十八反、價額四百六拾九圓なり

一、木蠟 木蠟は本縣特有物産中の主なるものにして其の起原頗る遠し隨つて普及の踏廣く縣下至る所多少の産出ありと雖就中西國東郡を最とし宇佐、下毛、速見、東國東、日田、大分次に次ぐ明治二十八年以來主なる産地に組合を設けて改良の方法を講じ既に効果を奏し製造法を改良すると共に晒蠟の製造を爲すもの漸次増加し來り其後更に法律に依り縣下を通じて一組合を組織し着々改善しつゝ、あり販路は大坂馬關より遠く東北地方に輸送す製造額は十四萬八千四百七十三貫、價額貳拾貳萬壹千四百八拾貳圓なり

一、雜業 前掲諸品の外砂糖、麥粉、煙草、漆器、陶磁器、薄荷、玻璃、石鹼、麥稈及び

經木真田、煉瓦及び瓦、莫大小、諸種罐詰、樟腦、油類、藍、漆液、釧、酢、石灰、竹細工、扇子及び團扇、下駄、蠟燭、麵類、水佈、菓子等の製造物は本縣の物産中に數ふべきものにして中には其の製造價額數拾萬圓に及ぶものありと雖も茲に之が詳記を省く

### 第十二章 鑛業

一、鑛業一斑 大分宮崎の山野は今後鑛業上着眼すべき地方なりとは鑛業家の夙に唱道する所なるが既往現在に徴し聊か意を強ふするに足るものなきにあらず立石の金山及び木浦尾平の鑛山は藩政時代より採鑛に着手し殊に木浦尾平は珍奇なる各種の鑛物散在し標本採集地として全國無比と稱せらる又日田郡鯛生野金銀鑛の有望なるは到底想像の及ぶ所にあらず一株五拾圓の配當百五拾圓に達し而して一株の賣買價格實に參千五百圓を超ゆと云ふに見ても其の有利の一斑を推すに足るべし其の他全縣下に涉りて試掘地四十餘個所採掘せるもの數十餘個所に於て採掘高金八百四貫八十二匁、金銀二千五百四十四貫五十六匁、金銅一千三百八十八貫六百四十八匁、銅一千三百十八貫六十四匁、滿庵三百六十三貫六百五十匁、硫黃一千三百九十四貫五百八十四匁等を主なるものとす

### 第十三章 商業

一、銀行 本縣銀行の起原は明治十年にして第二十三國立銀行の大分町に起れるを以て嚆矢とす二十年以降東西相應じて勃興するもの頗る多く今や四十五個の本行と三十三個の支店（内九個他府縣にあり）とを有し總資本額七百拾貳萬九千四百圓、拂込額七拾參萬壹千貳百參拾

壹圓、積立金百拾八萬四千九百六圓に達す

一、會社 會社は營業の種類各種なれども酒造、青蘆、電氣等の諸會社を以て主なるものとす經濟界の消長に伴ふて時に事業に盛衰ありと雖も近時一般に智識進歩して經營宜しきに適へるが爲め概して年々盛況に向へり現今株式會社二十四（銀行を除く）合資會社十九、合名會社四にして總資本金百貳拾五萬四拾八圓、拂込額七拾參萬七千五百拾四圓、積立金九萬四千四百參拾壹圓なり

一、市場 市場は魚類、家畜、荒物、呉服太物、四十物、雜貨等種類一様ならずと雖も魚市は各市街地に大抵設置せざるはなく特に佐伯、大分の魚市は古來藩設にして規律整然たりしが維新後民業に歸せり

一、組合 營業の弊害を矯正し組合の利益を増進する目的を以て明治三十五年以降各種同業組合の設置せらる、もの頗る多く重要物産同業組合二十三を數ふるに至る又産業組合は三十年木浦製紙生産購買組合の起りしを初めとし三十九年四十年の兩年間最も多數の設立あり目下販賣、信用、購買の各組合を合して八十一に達し猶續々設立を企つるものあり而して有限あり無限あり目的も亦業務の狀態に據り各種各様なり

一、物産陳列場 本縣物産陳列場は去二十一年中大分町字南新地に開設せしが二十五年中之を廢し後更に再興を圖り大字勢家に約六千坪の地をトシスレート葺洋風建築を爲し四十年五月開場せり陳列品は目下十部に大別し一萬八千五百二十八點を陳列し尙ほ委託販賣をも取扱ひ毎月賣高約貳百餘圓に上る

## 第十四章 社 寺

二〇

一、社寺 縣下に於ける神社の總數は二千九百六十六にして官幣大社一、國幣中社一、縣社十二、郷社百十一、村社一千三百九十七、無格社一千四百三十五、招魂社三、神職四百人あり而して神饌幣帛料供進の指定を受けたるもの縣社十二、郷社八十六、村社二百五十九なり

一、寺院 總數は一千二百五十にして之を宗派別にすれば天台宗六十八、眞言宗八十八、臨濟宗二百九、曹洞宗二百十五、黃蘗宗十八、眞宗五百四十一、日蓮宗二十九、時宗一、僧侶一千四十四人あり

一、教會 新舊を通じて教會八、牧師八人、信徒四百六十一人を有す

## 第十五章 教 育

一、教育一班 山水秀靈の氣の鍾る所雙子山下に三浦梅園を生じ菡江の瀨に帆足萬里出で英彦溪中に廣瀬淡窓を産む其他碩學大儒相接で起り、集り來る四方の子弟其の數幾千なるを知らず文運常に一代の盛を極めて我國文化の發達に貢獻せるもの洵に尠からず流芳遺韻今に及びて尙文學を尙び教育を重んずるの風あり維新以前は各藩學館を設け文學武術を研修す此時代の道德教育は忠孝を本とし躬行を旨とせしかば士氣自ら堅實なるものあり國家有用の材を今日に出せる亦少しとせず明治の初年百般の制度全く革るに伴ひ教育亦舊を捨て新に移り益改善の歩を進め今や實に大分、中津、宇佐、杵築、臼杵、竹田の六中學校、男女二個の師範學校(共に大分)一個の高等女學校、甲種程度の農學校(御越町)及び農林學校(日田町)各一個、乙種程度の農學校郡

立三(大野郡立農學校、宇佐郡立農學校)郡立及町立工業徒弟學校二(別府町立工業徒弟學校、日田郡立工業徒弟學校)郡立女子實業補習學校二(直入郡竹田町)、組合立女子實業補習學校二(速見郡杵築町)、町立女子實業補習學校二(宇佐郡四日市町)町立立農業補習學校十六、町立立水産補習學校四を有し概ね成績逐年良好に趨き設備亦完成して多くの遺憾を見ざるに至れり

一、小學校 是總て公立にして其數尋常小學校三百三十一、其分教場八十八、尋常高等小學校七十三、其分教場三十三、高等小學校五十七あり而して分教場減少して尋常高等併置の増加する傾向あるは喜ぶべき現象なり高等小學校の修業年限は從來四ヶ年のもの大多數を占めしが義務年限延長に伴ひ當然二ヶ年となりしも漸次三ヶ年に延年の傾向あり補習科を設けたる學校は尋常小學校六十九、尋常高等小學校二十七、高等小學校二十、計百十六校にして就中八十六校は正教科教授時間内に設けたるものなり教員は本科正教員千二百六十三人にして漸次増加の傾きあれども之を學級數に比すれば猶八百五人の不足を見る學齡兒童の總數は十三萬五千五百十五人就學兒童は十一萬五千八百三十二人にして就學歩合は九十八人七分一厘なり

一、私立學校 是國語漢文の外普通諸學科を教授するもの五、英語を主とするもの一、簿記を主とするもの一、經典一、盲啞一、裁縫一なり

一、教育會 大分縣教育會は明治十八年の創立にして現在會員三千八十五人あり三十八年度に於て其の組織を變更し各郡に支部を置き連絡を圖れり其の事業の概要を擧ぐれば毎月雜誌を發刊すること毎年一回總集會を開き教育上の演說討議を爲すこと教育功績者を表彰すること懸賞論文を募集審査すること臨時名士の講演會を開くこと夏期講習會を開くこと常設委員を設け初等、中等、女子、社會、實業の五部に分ちて各調査研究の結果を發表し斯道改善に資する

こと等にして三十七年中福澤紀念圖書館を設立して各種の圖書を蒐集し公衆の縦覽に供せり又巡回文庫の法を設け各地方に新刊圖書を巡覽せしめ又中津公園地に獨立自尊碑を建設して彼の所謂獨立自尊の主義鼓吹に資したる如きは最も顯著なるものなり

一、青年會 町村の青年をして智徳を修養し身體を鍛錬せしむるは常に青年の品位を高め福利を増すのみならず町村自治及び一般産業教育等の發達を促進する上に於て裨補する所少からず本縣從來青年會夜學會等なきにあらずと雖も其の組織不備のものありて充分の活動を爲す能はざりしは遺憾とせし所なるが昨年八月準則を公示し或は直接間接に其の設立を奨励せしかば各地續々之が設立を見今や其の會數三百を數ふるに至り全縣下に普及するも將に近きにあらずんとす中には學術の研究、風俗の改良其の他實業上に既に實績を擧げたるもの尠からず

## 第十六章 兵 事

一、陸軍 本縣の陸軍管轄は從來第六師團なりしも後第十二師團となり今日に至れり而して西國東、東國東、速見、玖珠、日田、宇佐、下毛の七郡は中津聯隊區に、大分、北海道、南海部、大野、直入の五郡は大分聯隊區に分屬せり又徵馬管區は東國東、速見、北海道、南海部、大野、直入の六郡は第五師團に其の他の六郡は第十二師團に屬せり

縣下に於ける壯丁の數は年々多少の増減ありと雖も概して増加しつ、あるは即ち人口増加の結果に外ならず昨四十一年度徵兵検査の結果に依れば壯丁數七千三百六十一、内合格者五千六百三十四を出せり

一、海軍 陸上は佐世保鎮守府の管轄にして海上は吳鎮守府の所管とす故に縣下より徵募

せらる、志願兵と徵兵とを問はず總て佐世保海兵團に入團するものとす而して海軍兵は概ね志願者より徵募せらる、ものにして本年度に於ける縣下志願者は五百七十三、合格者百四十八なり

一、大分縣尙武會 本會は明治二十七八年戰役の實況に鑑み會員並に有志者の義捐金に依り成立せるものにして平時は武學生の養成及び尙武の氣象涵養に努む既に中尉二人、少尉一人を養成し又中央幼年學校在學のもの二人地方幼年學校在學のもの一人あり而して戰時事變に際しては軍人家族の保護其他恤兵の事に従ふ去る三十七八年戰役の際本會より支出せる家族保護金額は壹萬六千圓にして三十九年四月金杯一組を下賜せられたり

## 第十七章 衛 生

一、醫師 本縣醫師の數は試験及第者百八十八人、舊試験及第者三十一人、府縣立醫學校卒業者五十八人、高等學校卒業者七十七人、醫學博士一人、醫學士六人、醫科大學卒業者十四人、從來開業者二百九十二人、計六百六十七人にして其他齒科醫等七十七人あり

一、病院 縣立病院は明治十三年の創立にして同時に縣立醫學校を併置し島瀉醫學士院長兼校長となり多數の醫師を養成せしが二十一年醫學校を廢し尋で二十二年病院を廢止せしが三十三年再び縣立病院を興して中山醫學博士院長となり漸次規模を擴張して今日に至れり其他郡立共立又は個人立の病院は興廢常ならず其他産婆養成所は大分町に檢疫消毒所は日出町に在り

一、醫會 各郡醫會、聯合醫會等ありて斯道の研究に努め公衆衛生に貢獻するところ少からず



## 第十八章 人物

二四

明治四十年大分縣教育會の編纂せし大分縣偉人傳を繕き近きは福澤、小幡の二先生より遠きは三浦、帆足、廣瀬の碩儒に至るまで碩學宿儒其他勤王家、政治家、高僧、畫家、孝子、義僕、實業家等の偉迹を網羅せるを見れば何人も其の偉人の多きに驚かざるものなかるべし山靈水神果して偉人を生ずるか偉人果して山秀水麗の郷より出るか蓋し古人の所謂地移氣とは夫れ此の謂なるなからんや茲に其の最も異彩を放てる者を擧げて以て本編を了ゆ若し夫れ其の詳傳の如きは本誌の能く悉す所にあらず

一、政績家 木下俊長、松平重休、奥平昌鹿、毛利寛龍、奥平昌高、木下俊程、井上並吉、鹽谷大四郎、村瀬吉義

一、碩儒 秋山玉山、原田東岳、綾部道弘、綾部綱齋、綾部剛立、三浦梅園、前野良澤、倉成龍清、脇蘭室、渡邊重名、鶴峯戊申、大藏永常、清原雄風、角山九華、帆足萬里、米良東嶠、關蕉川、毛利空桑、勝山季鳳、中村栗園、後藤子恭、野本白巖、元山伯倫、岡松魏谷、廣瀬淡窓、廣瀬旭莊、廣瀬青村、廣瀬林外、中島子玉、秋月橋門、長三洲、孔珠溪、物集高世、賀來飛霞、毅篤、渡邊重春、白石照山、福澤諭吉、小幡篤次郎

一、畫家 田能村竹田、高橋草坪、帆足杏雨、十市石谷、後藤碩山、田能村直入

一、高僧 禪海、雲華、五岳、香頂、諦洲、蓬洲、惟庵

一、勤王家 小河一敏、中川栖山、矢野勘三郎、赤座彌太郎、山近陽一郎、伊東俊次郎、渡邊彦九郎、廣瀬武夫、殖田謙吉

一、孝子、貞婦、義僕 永富金右衛門、孝女初、川登二孝女、孝子傳藏、手野村貞平、國

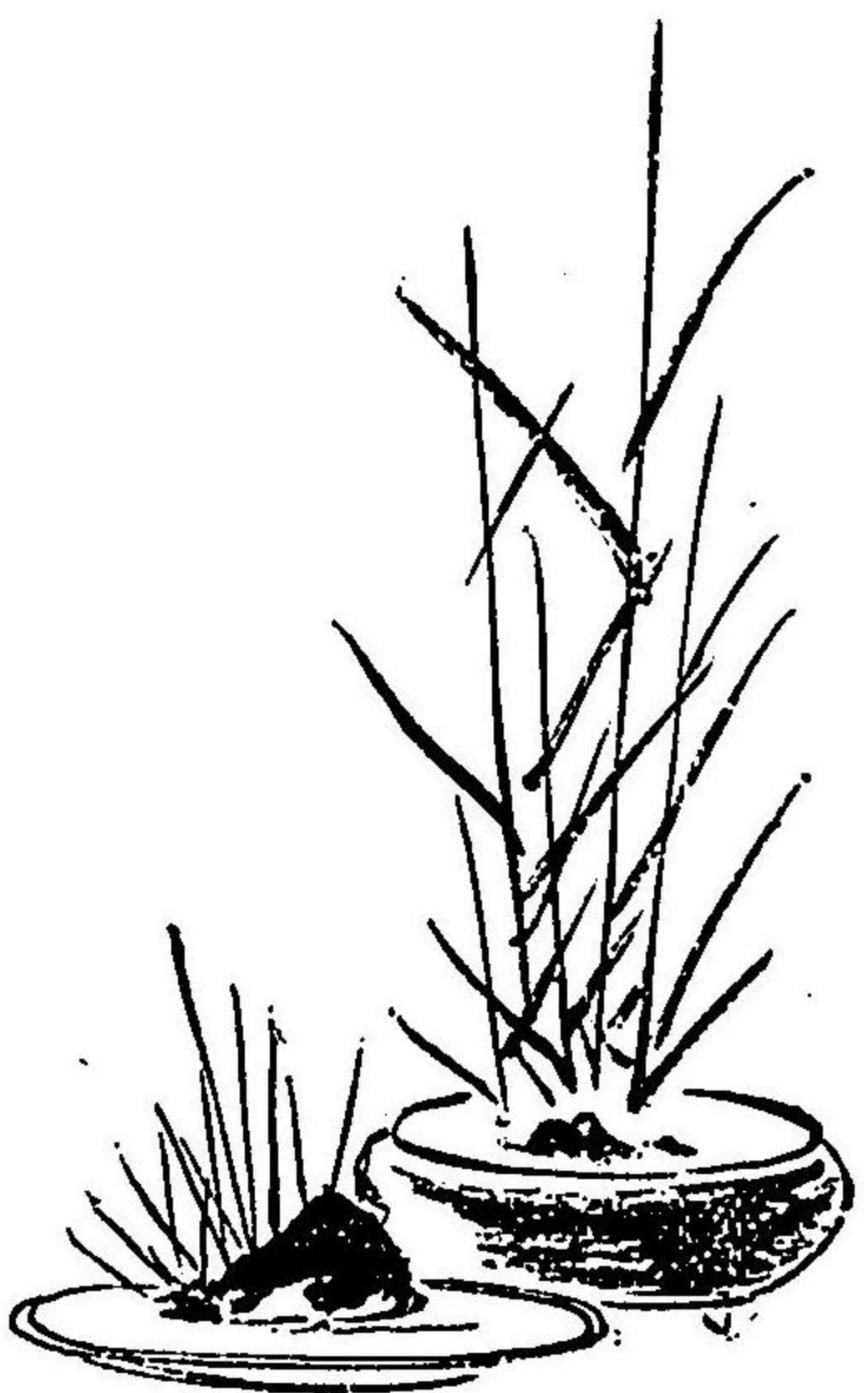
東三孝子、孝子右京、貞婦伊知、甲斐きせ、莊田貞子、草野園三、三之丞、新助、穴井六郎右

衛門、赤尾三左衛門

一、實業家 橋本五郎右衛門、佐藤甚兵衛、工藤三助、小林九左衛門、菅島信任、上田春

莊、古庄重敏、井澤幸兵衛、廣瀬久兵衛、幸島祥平、蛭木八衛、長野小六、仲家太郎吉、賀來

藤三郎



二五

## 後編 各郡

### 第一章 西國東郡

地勢縣の東北に斗出して東國東郡を合し半島を爲せり面積十五方里、戸數八千四百、人口四萬八千餘、一町十五村を有す、郡中主なる道路は高田町を中心點として都府道、四日市道、鶴川道、杵築道、竹田津道等陸路の交通は稍便なれども海上は甚だ不便なり、物産は米穀、木蠟、食鹽等なり

○高田町 は桂川の河口にあり郡役所其の他諸官衙の在る所にして郡の中樞たり

○高田城址 は建久七年高田重定の初めて封せられ城寨を築きしより終に其の地名となれり文祿二年竹中重成寛文六年松平重直に移る等幾多變遷を経て島原藩主松平忠房の所領となり役所を城址に置き以て廢藩置縣に至る

○縣社若宮八幡 は大鷲尊を祀る養老年間の創始にして本郡中の宗祠とす神苑に肥前本草より運搬せし巨大の手水鉢あり南行三十丁應利山の頂上に

○報恩寺 あり養老年間僧仁聞の開基せしものにして黄蘗に屬す夫れより東二里半田染村路に

○富貴寺 あり天臺宗延曆寺の末寺なり僧仁聞一大樹を得て三大堂を造りたる一なりと云ふ一は壞崩し一は傳はらず特に本堂のみ儼存す蓋し我國稀有の古刹にして近時特別保護建築物に編入せらる柱橋障扉の佛畫は巨勢金岡の筆と稱す其他古器珍寶を藏す西南一里餘

○郷社八幡社 あり國東三社の一にして附近の巖面に仁聞の彫刻せりと傳ふ多數の佛像

あり山上二個の奇石は恰も二見浦の靈石に似たり南一里に

○熊野權現 あり巖面の不動明王は仁聞一刀三禮の作なりと云ふ東北一里大字上野に

○村社三宮八幡 あり國東三社の一にして奇岩頗る佳趣を帶ぶ東二里半二子山に並びて

○並石 の奇岩あり耶馬溪中猶多く見ざるの好景なり南北一里半西都甲村に

○天念寺 あり是亦仁聞の開基に屬す山頭八十八所の札所を設け斷崖削れるが如く鐵鎖を攀ちて僅に道を通ず風光絶佳文人騷客の必ず一遊を試むべきの逸境なり安置せる佛像六軀は國寶に指定せらる西三里半にして

○吳崎村 に出づ日田府尹鹽谷大四郎の新開せし所なり夫れより竹田津道を行こと四里半

○郷社別宮八幡社 あり養老年間宇佐神宮の分靈を勸請す樓門の扉楹精巧の彫刻を爲せり世俗日暮門と云ふ夫より約半里海中に斗出せる岬角あり

○長岬の鼻 と云ふ樹容巖態奇巧を呈し四國中國の諸山煙波の間に横はり沿岸の光景畫くが如く相州江の島に比し多く遜色なし

## 第二章 東國東郡

地勢縣の東北端に斗出して周防灘の西を扼し關岬を相對して南首灣の門口を爲す面積二十三方里、戸數一萬一千餘、人口六萬二千、四町十六村より成る地味蘭草の栽培に適す陸上險路多く交通不便なり唯海濱を巡る道路には馬車を驅るべし守江鶴川竹田津には汽船の往復あり本郡は西國東郡と合して單に國東郡と稱せしが明治十一年東西に分割せらる古は國崎又は國前に作れり往古經向日代宮周防國より遙に覽はして國の崎の如しと詔せられしに初まること古記に見ゆ

○安岐及び富來 は鎌倉新府の初め大友能直の支城たりしより廢藩置縣に至るまで幾多の更革ありて郡内諸町村と深く沿革上の關係を有する名邑なり

○國東町 は明治二十二年鶴川田深二村を合して改稱したるもの、郡の中心として諸官衙のある所なり

○郷社櫻八幡神社 は仲哀、應神、神功の三座を祀る社殿壯麗にして洞窟中龍を刻める自然石の大手水鉢は人目を惹くに足る

○王子岬 は國東俱樂部の背面に在り水天漂渺の間廻に伊豫の諸山を望み煙島亦近く指呼の中に横はり翠黛畫くが如し

○鶴川港 は大分馬關間航海の汽船寄港して陸運の不便を補ふ

○安が濱 は根上り松の奇觀を以て稱せらる

鶴川より梓築に向て三里

○安岐町 あり人煙稠密の小市街にして其灣は古歌に名高きも水淺くして良港ならず之より西一里

○縣社奈多神社 あり祭神は宇佐と同じく今は同宮の攝社たり山緒ある古祠にして藏する所の珍寶枚舉に遑あらず其僧形八幡座像及び女神座像は國寶たり之より西すること一里

○守江港 あり灣内濶く水深くして船舶常に輻輳す地方貨物の集散地たり

更に方向を轉じて鶴川より西方高田道を行くこと二里半

○泉福寺 あり曹洞派の小本山なり永和中無着禪師の創むる所其の樓門猶ほ舊觀を存す更に西一里

- 兩子寺 あり一に總持院と云ふ僧仁聞の開基にして世に知られたる古刹なり本尊は仁聞の彫刻と傳ふ南方一里半大字富清に鴻儒
- 三浦安貞の墓 あり安貞名は晋、變山、又梅園と號し豊後聖人の稱あり兩子寺より北東一里半大字赤根に
- 冷泉 あり胃腸の諸病に效ありと云ふ轉じて北すること一里
- 干燈寺 の境内に僧仁聞の墓あり之より北西二里
- 郷社小松神社 あり小松内大臣を祀る風景頗る好し  
田深より北一里半富來浦に
- 萬弘寺 あり足利尊氏船を富來浦に艤せし時此寺を次營とす今猶其の遺物を藏す之より西二里大字大恩寺に
- 文珠仙寺 あり天臺の古刹にして遠く文武常元年の創始に係る亦僧仁聞の事蹟を傳ふ富來より西北三里字熊毛に
- 熊毛港 あり萬葉古歌に依りて著はる之より西の方二里半
- 竹田津港 あり天然の良灣にして大船を泊すべし便船に乗じて
- 姫島 に渡る姫島は周圍四里半、戸五百餘を有す箭筈、達磨の二峰崛起し濱渚白砂青松相連り風光甚佳、世俗所謂姫島七不思議は今其の蹟を止めざるものありと雖も古來詩歌に賦詠せられたる觀勝猶甚だ多し

### 第三章 速見郡

- 地勢縣の西北に位し牛角狀を爲して西北より東南に延長す東は海に面し其の他は東國東、西國東、宇佐、玖珠、大分郡に接す面積三十五方里、戸數一萬五千、人口七萬九千餘、郡内に六町十五村あり氣候溫和土地肥沃にして海陸交通の便あり且つ甚だ溫泉に富む  
往昔此邑の長に速津媛と云へる女ありしより終に地名となりしこと豊後風土記に見ゆ建久以來大友能直に領せられ慶長に至り杵築、日出の二城杉原、木下兩氏に歸し一町三村は久留島氏に分屬し明治維新に至る其の間數多の變遷ありて沿革甚だ混亂せり  
物産は青蘆、竹材、米穀、海産物、芽薑、梨等なり
- 日出町 は郡役所其の他諸官衙のある所にして郡の中樞たり其の港は水深く灣廣く天然の良港なり九鐵大分線開通の後海陸運輸の要衝たるべし
- 日出城址 は市街の南端にして浮津城又陽谷城の稱あり建武中大神仙助の築く所慶長六年木下延俊姫路より移封(一萬五千石)せられて之に居り以て今に至る城址山を負ひ海に臨み風景絶佳宛然畫幅の如し崖下一種の鯉魚を産す城下鯉の名高し味極めて美、東端に
- 郷社八幡社 あり大友氏の創建する所日出藩内の宗祠たり城址の東北五丁に
- 松屋寺 あり僧仁聞作の佛像を安置す古、天臺、今、曹洞、稀有の什寶數多を藏す境内大蘇鐵あり同寺より東北十二丁にして
- 横津神社 あり日出藩累世の廟祠にして眼界豁然詩思飄逸の情抑ゆべからず日出町より西一里
- 島山 あり豊岡町の海濱に斗立す古紀に記せる唐國使人、郭務悰の來着せし處なり西二十五町字市の坂に鮎返の瀑布あり高七丈瀟灑愛すべし轉じて日出町より東北三里

- 杵築町 あり繁華の小市街にして中學校諸官衙諸會社あり
- 杵築城址 は建久中大友氏の支族木付親重此所に築く後慶長の杉原早川及細川氏、寛永の小笠原氏を経て正保二年松平英親高田城より移り遂に世襲して廢藩置縣に至る
- 臥温泉 は城址の西北數町にありて炭酸性冷泉なり胃腸病に適す
- 錦江橋 は八坂川に架せる長橋にして橋上の眺眺頗る佳なり橋下の舟遊亦清趣あり西一里半
- 赤松山願成就寺 あり空也上人の開基に係る著名の古刹にして遐邇參拜の老若絶ゆることなし國道を西北に行くこと僅に數町
- 赤松橋 あり湖流に架せる一大石橋にして精巧壯觀を極む之より西すること二里字下市に
- 冷泉 あり鐵酸泉なり尙ほ西に行くこと二十丁字金山に
- 金坑 あり盛に採掘せり更に國道を西すること二十丁許にして
- 立石町 に出づ元立石營所在地なり長洲別府間往復の要衝にして旅客概ね晝餐の爲此地に憩ふ宇佐八幡及九鐵終點宇佐驛は之より西四里にあり

### 附 温 泉 案 内

○別府町 速見郡の東南端に位せる縣下屈指の市街にして山を負ひ海に臨み船艀阜頭に幅淡し空氣清鮮氣候温和山麓溪間濱海の別なく到る所温泉湧出せり我國伊香保有馬道後等温泉少からずと雖も此地の如く波光嵐影の中に市街を爲し海陸の交通至便にして鮮鱗蔬菜需むるとして贈給せざるはなく而も數百の温泉其の質を異にし單純泉あり酸性泉あり鹽類、炭酸、硫黃の

- 諸礦泉一として備らざるなく各自の疾病に應じ好む所に入浴せらるべき温泉場は恐らく世界に其の比を見ざるべし旅館の數は大略百四十有餘中には設備完全にして紳士の静養に遺憾なきものあり市外に朝見病院あり電氣鐵道は絶えず大分町に往復し九州鐵道は今將に延長せられんとす當町後來の發展推知すべきなり町内及び其附近主なる浴場竝に探勝に値するものを擧ぐれば
- 不老泉 は不老町にあり規模宏大にして設備完成せり炭酸泉に屬す
  - 清華泉 は大字濱脇にあり一名西の湯と云ふ炭酸性食鹽泉なり
  - 乾液泉 は俗に竹瓦の湯と稱す字北濱にあり數區に別ちて臥浴することを得
  - 楠湯 は字楠町にあり巨大の樟樹ありしと云ふ滿潮の時は海水浸入す
  - 靈潮泉 は字港町にあり俗に濱の砂湯と呼ぶ蒸湯、瀧湯の二浴場其の附近にあり
  - 弦月湯 は一に東湯と云ふ結構廣大の浴場なり大字濱脇にあり
  - 藥師温泉 は字藥師町に在り近年の構造に係る
  - 新湯 は流川を下つて北側にあり重炭酸亞酸化鐵を多く含有す
  - 田の湯 は上の田の湯とも云ふ不老泉の上一丁にあり
  - 九日田の湯 は北尋常高等小學校の前にあり
  - 朝見湯 は朝見病院の右側にあり
- 其他松壽泉、延壽泉、永石の湯、二條泉、豊湧泉、床の下湯等枚舉に遑あらず各旅館大抵内湯と稱し館内に浴場を設けり
- 觀海寺温泉 は鶴見山腹に踞し函首灣を瞰下す風光頗る明媚なり不老泉の上半里にあり
  - 堀田温泉 は鶴見山の東麓觀海寺の西北半里許にあり硫黃泉に屬す

- 明礬温泉 は別府より西北一里白き斜斑を望見する所にあり
- 鐵輪温泉 は別府より約一里半扇山の北にあり馬車を通ずるを得
- 柴石温泉 は鐵輪温泉の北東半里別府より二里の所にあり
- 龜川温泉 は一名里屋の温泉とも云ひ別府町より國道を北すること一里餘にあり
- 塚原温泉 は別府町より西北四里にあり能く瘡病を癒す
- 由布院温泉 は所謂豊後富士の東麓山布院にある數ヶ所の温泉の總稱なり
- 海門寺 は老松四圍境内幽邃夏日の避暑に宜し
- 的が濱 は往古鎮西八郎爲朝の射を試みし所即速見の濱なり
- 工業徒弟學校 は朝見川岸にあり町民の熱心に成るものにして校風の美全國有數と稱せらる
- 東山遊園 は其規模小なりと雖も浴後の清遊に適す
- 別府公園 は北尋常高等小學校の附近一帯を云ふ明治四十年十一月、開園に係る
- 躑躅園 は別府公園の上により疎松の間躑躅を以て滿ざる眺望絶佳なり
- 崇福寺 は大字濱脇の東南端にあり長汀曲浦の光景眼下に落つ
- 長松寺 は用明帝の朝百濟僧の創建する所俗塵に遠く風光甚だ美なり
- 村社朝見八幡社 は大友能直鎌倉鶴ヶ岡八幡を勸請せしものにして寶物古書等を藏す
- 乙原の瀑布 は雌雄兩瀑あり盛夏半日の閑遊を試んか其の清興言ふべからず
- 式内縣社火男火賣神社 は元鶴見山嶺にありしを今の鍋山の下に移せしものなり境

内幽邃

- 坊土地嶽 は此神社の後方松林中にあり熱泥の沸騰するもの見る者戰慄せざるはなし
- 海地嶽 は濶さ十餘丈深さ測るべからず其色深緑にして蒼海に似たり
- 血の池地嶽 は其色朱の如く池中より噴出せる泥土を以て墻壁を塗れば頗る美しと云ふ
- 城が塚 は鎮西八郎の築きたる堡寨の跡なりと傳ふ高崎山布鶴見の諸山及び三十六洋一灣の風景歷々として一眸の中に集る近時桃櫻を植ゑ景勝を添へり
- 白龜塚 は龜川温泉の海濱にあり承和年間朝廷に獻じたる白龜を獲し所なり地名之に因す
- 實相山 は茫漠たる石垣原頭に峙立し山上稍平なり慶長五年黒田大友の古戰場なり
- 吉弘嘉兵衛統幸墳 は實相山麓字下馬松の路傍にあり大友義統の兵を擧ぐるや統幸其の西軍に従ふの不利を説き苦諫して容られず寡兵黒田の大軍に當り奮戦して社稷に殉す後人碑を建て其の忠魂を弔ふ今に至るも碑前香華絶えず

第四章 大分郡

大分郡は縣の中央に位し北は海に臨み東は北海部西南は大野直入玖珠速見の諸郡に界す面積二十九方里、戸數二萬一千二、人口十二萬四千餘、二町二十七村を有す氣候溫和、土壤肥沃、交通最も開けたり往昔景行天皇行幸ありて碩田と詔らせたるより後世轉訛して大分となれり古へ國府を此地に置き當國を統治し鎌倉賴府の時頼朝の庶子大友能直をして守護せらしむ義鑑義鎮の時武威赫々領域九州の大半を超ゆ二十二代義統に至りて豊臣秀吉の爲に國除せらるる建久七年より文祿二年に至る年を経ること三百九十八年にして亡ぶ爾來幾多の變遷ありて萬治元年松平

忠昭府内に移封せられて本郡の内二萬三千石を領し其の餘は熊本、岡、臼杵、延岡及び幕府の分轄する所となる

○大分町 は郡の北端にあり戸數人口に於て中津町に如かずと雖も縣の中樞にして縣廳其の他諸官衙公署銀行會社學校等宏壯なる建築物を接し市街の繁盛なること縣下第一たり特に近時七十二聯隊兵營の新設せらるゝあり又目下九州鐵道線の延長工事中なれば數年ならずして九州東南部の貨物悉く此地に集散すべく其の發達の狀想知すべきなり

○府内城址 は一に雉城又荷揚城と云ひ大分縣廳を置く樓櫓城壁外濠等の舊影今尚ほ存す文祿二年國主大友義統國除せらるゝや早川長敏福岡直高竹中重隆等の諸氏代りて之に居り或は臼杵、岡、杵築、幕府等の所管に歸する等幾多の變遷を経て萬治元年松平忠昭移封せらる

○萩原 は大分市街の東を流るゝ縣下屈指の大河大分川の東方にあり食鹽の産地なり元和年間越前守相忠直卿此所に配流せられ其の館址今尚ほ存す其の南數丁にして

○松榮山 あり山上に招魂社及び西南役戰死者の墳墓あり櫻松鬱々眺望佳なり此より東一里  
○鶴崎町 は元肥後藩に屬し藩主參勤の時此の港より乗船せり天正の昔吉岡宗觀の妻薩將及び其の兵を廢殺せし古戰場なり僅に隔たれる乙津川の河口なる三佐は岡藩領地にして亦藩侯乗船の地なり

○惠想寺

は乙津川を溯る約半里にあり鎮西屈指の巨刹なり猶ほ溯ること半里にして

○高田村

あり往古より紀の新太夫行平其の他有名の刀匠輩出せし所牛蒡の名産地なり

○大分町に返り市街の東端長濱神社の前より南して鹽九升町に入る即國道三十六號線にして

○蔣山萬壽寺

は東新町の中央にあり嵯峨天皇の御宇創建せしと云ふ山門に趙子昂の書

せし蔣山榜額を掲ぐ鎮西禪林の名刹なり寺前より南數丁

○大分中學校

あり土地高燥にして最も眺望に富めり校舎の西に一字の寺あり

○金剛寶戒寺

と云ふ眞言の古刹にして神龜四學聖武帝の創建せしめしもの僧空海庵居

せしことあり五字牌の額は帝の宸筆と稱す竹樹鬱葱として庭前躑躅數株を植う閑雅幽邃の淨地

なり此附近一帶大友累代の館址にして今尚ほ御屋敷の地名を存す當寺より三丁餘に

○圓壽寺

あり天臺の古刹にして什寶許多を藏す寺を出で坂路を下り左に廻れば

○元町

の部落に出づ大友氏古國府に治せし時は此附近頗る繁華を極めしと云ふ斷崖に

○藥師如來

の石像を彫れるあり一丈有餘の大佛にして敏達の朝日羅の彫刻に係ると云ふ

○大臣塚

は藥師後方の丘陵を稱す國司百合稚大臣を葬りし所なり百合稚は藤原鎌足の曾

孫にして此地方に歴史上多大の趣味を有するものなり

○國幣中社西寒多神社

は大分市街の南二里植田村にあり石造の大鼓橋は祠前の清流

に架し殿宇亦壯麗なり元大野郡寒山村に在りしを此地に移せしものなり延喜の制既に大社に列

せり再び國道に出で行くこと里許斷崖に激する白瀧渡に出づ彼岸は即ち

○戸次村

にして大友島津の古戰場なり左方の丘上に

○長曾我部信親の墓

あり天正中元親大友を援け島津と戦ひし時長子信親奮戦して死

す時に年甫めて十八其れより臼杵道に入り約一里吉野村に

○臥龍梅

あり老幹蜿蜒數十頃に及ぶ玖珠郡森町の梅と對稱して騷人の激賞する所なり

再び大分市街に還り電鐵線路に沿ひて堀川町の西端より右折すれば

○仙石橋

に出づ豊太閤島津征討の時其の先鋒仙石秀久を待遇する爲に大友氏の架せしも

のなり

- 威徳寺 は仙石橋の北沖の濱町の中央にあり境内老松全庭を覆ひ頗る奇観なり
- 山蔭中納言の墓 は沖の濱町の裏にあり中納言は左大臣魚名の玄孫にして其の豊後に關係せる山來歴史上研究の價値あり西數丁
- 春日公園 あり古木鬱蒼頗る風致に富む海濱は白砂青松逶迤として連り一望千里を極む園内に春日神社、蓬萊丘、賢女之碑等あり
- 郷社春日神社 は武甕槌命外數神を祀る天平中國司の勸請せるものなり
- 蓬萊丘 は初め甚だ高かりしこと舊記に誌せり今の丘は正保二年日根野吉明の築く所と稱す丘下に碑あれども文字湮滅讀むべからず或は云ふ往古の墓塚なりと
- 賢女之碑 は元府内元町の賢女起世を表彰せしもの清人沈文榮の選文に係る碑陰明治十三年長茨亦記することあり春日祠及び勢家町の海濱を
- 神宮寺浦 と云ふ往昔神宮寺の境内なりしと云ふ大友宗麟外國と貿易せし古蹟なり
- 大分縣師範學校 は公園の西隣にあり電鐵線に沿ひ西數丁にして
- 淨土寺 あり永正中の開基、本堂の裏に越前宰相忠直卿の墓あり西數丁濱の市御旅所内の
- 青島神社 は琉球より七島間を持歸り國産の増殖を圖りたる橋本五郎右衛門を祀れるもの
- 縣社柞原八幡社 は大分港の阜頭より西南に坂路を行くこと十丁餘の山中にあり樹木森々閑雅幽邃一點の黃塵を留めず仲哀、應神、神功の三柱を祀る天長四年の勸請なり屢勅使下向の事あり什寶舊記數るに違あらず藏する處の阿彌陀如來の銅像は近時國寶に指定せらる西北に向ひ坂路を攀ること約一里にして

- 高崎山 に達す別名四極山又柴津山の稱あり大友氏時築を築き天正七年廢築となる
- 菡萏港 は即ち大分港にして港内水深く船舶常に輻湊す市街の西海中に崛起せる小丘は
- 笠結島 にして古松疎生頗る雅致に富めり島前より電車に搭すれば數分間にして終點大分橋停留所に着す大分市街より熊本縣道を南に進む二里左方に溪流に沿ひて溯れば
- 塚野冷泉 あり最も胃病に效ありと云ふ大分町より西南に向ひ佐賀縣道を進むこと九里にして
- 湯の平温泉 あり縣下屈指の温泉場にして最も胃病に適す
- 蓬萊丘 は賀來村の高原にあり春日公園の丘と同名なり古代の山陵にして十數個の陪塚あり

### 第五章 北海部郡

縣の東北に位し東北は海に瀕し西は大野大分兩郡南は南海部郡に界す面積二十方里、戶數一萬六千、人口九萬六千餘、二町十九村を有す明治十年海部郡を南北二郡に分つ舊記には「此郡皆海邊の白水郎なり因て海部郡と名く」とあり大友氏國除されてより福原、太田二氏相次で臼杵城に移り慶長五年稻葉貞通之に代り爾後世襲明治維新に至る尙ほ外に細川領に屬せし村落あり道路は佐賀關より鶴崎に至る國道及臼杵港道、二線を主なるものとし臼杵、佐賀關の二港は貨物の集散地たり物産は米穀、煙草、木材、蜜柑、石灰、魚類等なり

○臼杵町 は人家櫛比商業繁盛にして町民一般に古來勤儉の美風あり臼杵中學校、郡役所其の他公署會社等あり



○白杵城址 白杵城は大友宗麟の築く所にして要害無雙と稱せらる當時丹生島城と呼べり現今白杵公園となり三方水に面し眺望頗る佳なり城址を下り稻葉子爵邸の前を廻れば

○郷社八坂神社 あり元祇園社と呼び殿宇宏壯なれども老樹古木少きを憾とす西南に行くと五六丁

○月桂寺 あり稻葉家累世の菩提寺にして境内幽邃なり之に隣接して一字の寺あり

○多福寺 と云ふ風光の明媚なること月桂寺に譲らず臨濟派の龍象たる雪窓の手栽せし老松亭々して雲霄を抜くあり寺前より西北數町にして

○大橋寺 あり天文中南都祐範上人の爲に大友宗麟の建立する所眺望絶佳なり西南數丁にある

○天満祠 は字福良の高丘にありて四望豁然として騷客の登覽絶ることなし其の西南十數丁に

○新高野山 あり亦頗る眺望に富む行客の一遊を試むべき勝地なり其の北方十數丁

○大神宮祠 には一條の瀑布あり玲々たる清響恰も仙境に入るが如し轉じて北津留村に到れば

○郷社井村社 あり徳治年中越智忠通の建立にして陰曆四月卯の日牛馬市を開く例あり尙一里

○冷泉 の迸出するあり驚來ヶ迫の冷泉と云ふ今浴場二個を設く炭酸泉に屬す

○海邊村字津留 と云へる部落は白杵町の對岸にあり戸數百餘戸平氏の末裔と稱し今尙ほ他郷と結婚せず言語習慣異様にして自ら別天地を爲せり之より更に一里餘にして

○下の江港 に出づ港内水深く巨船を泊すべし三兒島、黒島の好景前にあり佐伯道を行く半里

○棧 の景趣あり且つ花卉に富む津久見岬より下浦に下らずして佐伯道を進む二里半

○津久見浦 に出づ此地有名の蜜柑産地なり更に轉じて白杵町より東十三丁にして

○下り松 あり汽船の寄航所たり白杵市街、諏訪山等を望む頗る好景色なり乗船約一時間

○佐賀關 に達す港は南北兩所に開け天然の良港にして船舶常に輻湊す阜頭に接せる丘陵を

○左義長岨 といふ慶長五年岡藩の重臣中川平右衛門、古田喜太郎等白杵城主太田重正の兵と奮戦し二將以下諸士悉く戦死せし古蹟にして十餘基の墓石尙ほ崖上にあり東二三丁

○縣社早吸日女神社 あり八十柱津日神外數神を祀る有名の靈社にして縁起遠く神武東征の昔に發す殿宇の規模宏壯にして樹木森々たり上浦の北に方れる灣口を

○日向泊 と云ふ神武帝の艦を繋ぎし遺跡なり又下浦に

○縣社椎根津彦神社 あり神武帝を奉迎して嚮導を爲せし功臣珍彦を祀る下浦より關崎燈臺下に至る曲浦に手段浦、却の浦、基洞の浦、白ヶ濱、小黑ヶ濱、大黒ヶ濱の景勝あり豊後國志に明かなり之より東北に進み地蔵が崎の崖頭に

○關崎燈臺 あり伊豫の佐田岬と相對し海峽六里前面に數多の島嶼を控へ翠黛盡くが如し此海峽は上世所謂早吸の名門にして潮流頗る急に暗礁亦多く航海の難所と稱す少し西方に

○牧山 あり古來著名の牧場にして彼の宇治川戦の名馬望月の産出地なり白ヶ濱の崖上に方り

- 遠見山 あり昔領主細川氏の設置せし望樓の遺址あり之より少し隔りて
- 炬火臺山 は舊藩の時毎夜火を揚げて航海の標示とせり望樓の東南に
- 凝露臺 あり俗稱古遠見ふるまほのと云ふ往古關司の居りし跡なり

### 第六章 南海部郡

縣の東南に位し南は日向に界し西北は大野北海部二郡に接し東北は海に而す蒲戸鷺見の兩岬遙に相對して一大灣を爲す佐伯灣と云ふ面積三十九方里、戸數一萬四千、人口八萬三千、一町二十三村を有す氣候溫暖霜雪を見ることなし佐伯より宇目に至る國道及び都府道、蒲江道、市場道、因尾道を陸路の主なるものとし海路は佐伯港を中樞とし運輸の便多し木材、椎茸、木炭、紙、米穀、水産物等産物豐饒なり明治十一年南北海部二郡に分ちたること既記の如し

○佐伯町 は郡の中心として衙署會社等の諸機關備はれり舊藩時代文學盛にして明治の文壇に名聲を博したるもの多し市街の西北に發ゆるを城山と稱し即ち

○佐伯城址 なり一に鶴谷城と稱す高九十間周圍二十七丁餘老樹蒼鬱として滿山を蔽ひ幽致清閑を極む慶長六年毛利高政日田より移封し新に築く所に係る城山の東麓に

○養賢寺 の梵刹あり鼎山と稱し毛利氏奕世の菩提所とす三關和尚の開基にして其地藏佛は弘法の作辨財天は佛工春日の作なり堂宇壯麗西海稀に見るの精巧と云ふべく珍貴の什物數品を藏す寺を出て北行二丁餘

○陸軍墓地 あり西南の役官軍の將校兵士を埋葬す更に踵を東北に廻らして四五丁

○村社住吉社 は風光頗る佳にして納涼に適するの勝地なり

- 郷社五所社 は市街の東、山の中腹にあり佐伯城市の産土神とす
- 佐伯市街より國道を西すること約一里餘宇古市に
- 拇牟禮城址 あり土俗城山と云ふ今尙ほ礎石瓦片を存す緒方惟榮の據りし所とす
- 尺魔嶽 は城山より西北二里餘にあり、山勢峻峻にして怪巖絶壁、危徑絶ゆる所下すに鐵鎖を以てす山上中國四國の諸山を一眸の中に收め壯觀言ふべからず佐伯より東南三里餘
- 老櫻樹 あり青山村東光院の全苑を蔽ふ西南の役野津將軍馬を繋ぐ佐伯より東八合
- 佐伯港 あり一に葛港と云ふ灣内水深く波靜なり大阪、宇和島其他航海汽船の出入絶る時なし大入島の東北宇鹽内の海岸に在る
- 魚類活洲 は舊藩主毛利子爵の計圖に成れるもの其の北方に方りて
- 日向泊 と呼べる村あり往古神武東征の時皇船を繋ぎし所、佐伯町より陸路十里東中浦村に
- 鶴見岬望樓 あり洋上に斗出せる岬角巖頭瓦石造の高樓に登らば氣宇豁然たるを覺ゆ
- 水の子島燈臺 は望樓を距る十數里の海上に峙立し伊豫の口振島と相對せり

### 第七章 大野郡

縣の南端に位し東は南北海部の二郡西は直入郡北は大分郡南は日向國に接す面積六十五方里、戸數一萬五千、人口七萬八千餘、二町二十五村を有す山岳四方を圍繞し殊に東南は高嶺層巒人跡未到の處あり西北は原野多く氣候溫和地味膏腴米穀、材木、葉煙草等を産す大友氏の滅後中川秀成岡城に移り本郡の内大半之に領せられ餘は臼杵の稻葉貞道の領に歸せり

- 三重町 は郡衙所在地にして諸公署會社等ありて郡の中樞たり市街南方七合にして
- 蓮城寺 あり著名の古刹にして開基は遠く敏達天皇の御宇にあり其南方七里小野市村の
- 木浦鑛山 は諸鑛石に富むこと全國無比と稱せらる同村字木浦村に
- 傾山 あり海拔三千九百尺周圍七里登山里程四里の大山なり一に四皇子峰と云ふ神武東征の時諸皇子と共に登臨の故趾なり山顛鷓鴣草葺不合尊の山陵あり傾山の西長谷川村奥嶽に
- 黒葛谷瀑布 あり素絹圍を破つて落下す真に絶觀なりと雖も幽僻節を曳く者稀なり
- 尾平鑛山 は奥嶽の山下より西南四里にあり古へ採掘盛なりしが今殆んど廢鑛となれり
- 郷社御嶽社 は合川村にあり岡藩の祈禱所たり參拜者絶ゆることなし西北二里緒方村に
- 郷社大行事八幡社 あり大化元年創設の古社なり天正の兵火舊記烏有に歸す西方約七合
- 村社一宮八幡社 は壽永中緒方惟榮の創立する所之より北半里字上自在に
- 村社三宮八幡社 あり同じく緒方惟榮の創むる所以上三社を緒方三宗祠と稱す西北一里片ヶ瀬の
- 孤松原 は岡城と對峙せる高原にして岡藩の騎射場ありし所今觀櫻の勝地たり
- 普光寺 は片ヶ瀬より北約一里上井山村にあり敏達朝日羅の創始に係る側の法窟に堀直方書の筑紫山普光寺の六大字を彫刻し巖壁に日羅刻の佛像を安置す東北半里大字上尾塚に
- 楓林 あり樹幾千なるを知らず初冬滿林霜に飽くの時彩雲簇々半空に漲る夫より北方三里
- 神角寺 は欽明の朝新羅の僧某の創立と傳ふ古へ子院二十六區を建立し輪奐壯麗儼然たる名刹にして世俗稱するに西海の高野を以てしたりと云ふ危峯疊々、觀國峯の眺望最も妙なり

近時其本堂を特別保護建造物に編入せらる緒方大友の古戰場にして山頭に緒方の族大野泰基の墓あり東一里半養老村に

- 醍醐寺 あり天平勝寶釋正覺巡錫して酒泉の靈區を認め一淨刹を建て名けて酒井寺と云ひしと又曰く昔土師氏の女孝徳ありて醴泉を得し云々蓋し今の村名亦之に起因せるならん
- 沈墮瀑布 は大野村矢田にあり高九丈瀾百步咆哮怒號萬雷の轟くが如く飛沫濺々驟雨の至るに似たり壯絶凄絶眞に天下の偉觀なり現今豊後電鐵の水力發電所を設けたり流に沿ふて下ること四里大野河畔に
- 犬飼市街 あり三重町に次ぐの繁榮地たり大野川を控へ戸次に三里鶴崎に五里船楫の便あり郡内北部の貨物皆之によりて集散す兩岸の風光應接に遑あらず

### 第八章 直入郡

縣の西南に位し南は肥日兩國東は大野郡西は肥後西北は玖珠郡北は大分郡に接す面積三十五方里、戸數八千九百、人口四萬四千餘、二町十八村を有す土地高峻氣候寒冷にして熊本縣道、臼杵道、森道、高千穂道及び久住より大分港道等あれども概ね險惡なり米、大豆、煙草、繭、紙等を産す昔桑の大樹あり俗に直桑村と名け後人直入に改むと云ひ又直欲に作れり大友の族志賀氏の所領なりしが文祿二年大友氏國除の時志賀親次また領地を捨て、去る翌年中川秀成岡城に移封せられ奕世相襲ぎ以て明治維新に至る

- 竹田町 山間の都會にして直入郡の幹部たり諸官衙會社團體皆此地に置かる市街の東南に

- 岡城址 あり形に依て臥牛城と云ふ城は山に據り谿に跨り斷崖屏列其險天下無雙と稱せらる天正中薩軍の壘に入るや諸城皆陥る獨り岡城屢敵を敗り敵をして近づかしめざりしと云ふ
- 鐘樓 市街の東端にあり全市を瞰下して眺望絶佳なり
- 願成院 市街の西端にあり亦頗る眺望に富めり珍奇の佛畫佛像を藏す字友見谷の
- 躑躅園 は幽邃にして武陵の趣あり花時の盛觀譽ふるに物なし南西二合
- 魚栖瀑布 あり雌雄相連り高各十數間盛夏探幽の雅客陸續相踵ぐ
- 碧雲寺 は稻葉川の向岸豊岡村にあり中川家累代の壘を收む櫻樹の名勝たり西隣に
- 英雄寺 あり中川久盛外祖佐久間盛政追福の爲に創建せし所亦頗る佳趣に富む
- 水電會社發電所 は竹田市街西南四町字山手に設立せらる晝間は電力を諸工業に使用し夜間は竹田、玉來、豊岡に點燭す尙ほ熊本縣道を五六町進めば
- 山下公園 あり元中川家の別業を營みし所維新後組合共有の公園となる山上の
- 郷社中川神社 は藩主中川清秀、秀政、秀成を祀る、四境の諸峯を望むに風景極めて佳なり
- 扇森稻荷神社 は玉來町にあり俗に狐頭稻荷と呼ぶ社頭群雞棲息す其前面は
- 玉來町市街 なり人家櫛比商業繁盛なり南行三里半嶺嶽村の
- 縣社建男霜凝日古神社 は式内の古祠にして孝徳天皇白雉二年の創建なり同年代の松材尙ほ存せり其他古軍旗、扁額、鏡及び寶刀十數口等の什寶を藏す嶺嶽の頂上に叢祠あり
- 村社池社 と云ふ俗に穴森明神と稱す國志に所謂緒方黨の祖なる大蛇の靈を祀る所なり
- 祖母山(又嶺嶽) は有名の高山にして山脚肥日に延ぶ嶺上常に雪あり珍卉異禽に富む

- 白水瀑布 は嶺嶽の西四里柏原村にあり又陽目瀑と云ふ其の「いづみ」の瀑の名は千種有功卿の歌詠に依りて現はる蓋し白水の二字を合したるならん無數の石罅より千條の水晶簾を吐出す眞に奇觀なり下流に産する陽目海苔亦美味なり北凡四里萩村に
- 萩嶽 あり肥の萩嶽と相對峙し豊後萩嶽と稱せらる四望豁然たり山麓北一里菅生村に方る
- 鬼巖屋 は懸崖百尺巖穴優に百人を容るに足る古昔皇軍に抗したる土蜘蛛の遺趾なり
- 郷社禰野神社 は同村栗木にあり景行天皇の行在所の遺跡に奉祀せしものに係る
- 蜘蛛塚 は同村塚原にあり土蜘蛛の賊を殺して之を瘞する所故に此稱あり附近の岡所に
- 血田 あり即土蜘蛛血流の所なりと云ふ東南凡三合字國方に
- 七ツ森 あり古木翁鬱林中に七個の墳丘駢立す景行天皇征し玉ふ所の土蜘蛛の墓なりと云へど地名に依り考ふれば官軍方の遺骸を葬りたるものならんか東北三里城原に
- 縣社城原八幡社 あり殿宇壯麗郡中の宗祠たり景行帝駐筆の地にして地名を御園と稱す文徳の朝八幡大神の降臨あり景行祠に配祀す源爲朝大友能直共に之を修葺し國中七祠の一とす天平中薩軍の兵燹に罹りしを文祿三年中川氏造營す什器寶物數ふるに遠あらず北凡七合
- 木原山 あり形ち覆盆の如し俗に鉢山と呼ぶ萬葉の名欲山即是なり西行一里強にして
- 久住村 に出づ山間の小市街にして蠶絲業盛なり市街より西北凡一里許字青柳に
- 納池公園 あり清水池底より湧出し周圍の老杉池中の島嶼等其勝肥の水前寺に譲らず
- 南山城址 は西南一里半白丹村にあり岡城將志賀氏の支城たり西北一里同村字稻葉に
- 海石榴山 あり今椿山に作る景行帝兵椎を作りし所北溪を渡り久重の曠野を過ぐれば
- 法華院 の古靈場に出づ溫泉三、冷泉二あり之より山を登ること一里有名の

- 九重山嶺 に達す山脚七里に渉り高峯九あり仍て此名ありと云ふ後峯に綏靖天皇の祠あり半腹に猪鹿狼寺あり西北硫黄を噴出す仁田忠常此嶽野に田獵を講せしことあり東に大船山あり中川氏の廟殺生石等あり東北に黒嶽あり此三山を合して萬葉に所謂救民山と呼ぶ即ち此なり
- 七里田温泉 は都野村有氏にあり炭酸泉に屬す東方半里同村字佛原に
- 郷社宮處野神社 あり景行嵯峨の二帝及び日本武尊を合祀す東向一里長湯村に
- 湯の原温泉 あり炭酸泉なり西北に進むこと半里
- 郷社八幡社 あり亦景行天皇の遺跡なり北東に向ふこと四里大分郡界下竹田村に
- 蛇生瀨瀑布 あり高九丈濶七丈蘇聯山谷を震撼し見る者慄然たらざるなし

第九章 玖珠郡

縣の西北に位し東は速見、大分二郡、西は日田郡、南は直入郡に接し西南肥後の境を限り北宇佐下毛二郡に堺す面積三十七方里、戸數五千四百、人口三萬一千餘、一町七村を有す群山四方を圍繞し川流中央を縈廻し氣候寒冷なり昔時大友の配下に屬し後幕府竝に久留島氏の領有に歸す平地少く交通不便なれども佐賀縣道及び都府道には車馬を驅るべし米、清酒、木材を主なる物産とす

- 森町 は郡中の都會にして諸官衙のある所なり市街の北端に
- 角埋城址 あり鎮西八郎城塞を築きし跡なり天正中大友の軍薩の大兵を惱ませし所なり
- 郷社末廣神社 は天の御中主神を祀る郡中の宗祠、征客必ず足を入るゝの勝地たり
- 三日月瀑 は北山田村魚返にあり高さより濶さに勝る白馬碧潭に跳るの觀あり瀑畔の叢

林に

- 郷社瀧神社 あり天延三年醍醐帝の一の宮章明親王の姫、二位少納言清原政高卿を慕ひ終に瀑壺に入水せしを祀れるなり事禪史に類するも蓋し其の緣起據る所あるなるべし東一里
- 伐株山 は山容恰も大木の伐株に似たり高さ里許周圍二里餘傳云ふ古昔一大樟樹ありて其の斷根化して石となりたるもの而して又玖珠郡の名之に因すと夫より西南半里にして
- 萬年山 あり高さ二里周圍八里頂上平坦の所躑躅を以て滿ざる東に三里山を下りて引治の
- 金坑 は鑛質純良にして純益多きを以て名あり之より南行二里
- 寶泉寺温泉 あり克く儂麻質斯を療すと云ふ又西南半里
- 川底温泉 は硫黄泉にして癩疥に效あり更に南東四里に
- 湯坪温泉 あり其の東二里餘にして
- 寒地獄 の冷泉あり人足を浸さば忽ち戰慄知覺を失ふ其の南十丁に
- 硫黄山 あり九重山と接近し盛に硫黄を採收せり北一里渺茫たる曠野は
- 千町燕田 にして往昔朝日長者の住みし跡と稱す其の附近に大分牧場あり東北一里
- 震動瀑布 は直下數十丈水聲轟々地軸爲めに裂くかと怪まる更に北に進む三里
- 魚石 の出る奥雙石川に出づ魚石は黃褐色の化石にして其中に魚骨を含む北西三里
- 龍門の瀑布 は高五丈、濶三丈中斷して二段となる世に瀑布多しと雖も斯の如き優美なるもの恐らく他に其の比を見ざるべし更に北東三里餘にして
- 小河内の瀑布 あり玖珠郡にての稱なり即西椎屋の瀑布にして後に記すべし西行三里餘

○臥龍梅 のある谷河内に出づ一幹の老梅石枝鐵幹縱横に蟠屈す實に臥龍の名に反かす

### 第十章 日田郡

縣の西端に位し東は玖珠郡西は筑前南は肥後北は下毛郡及び福岡縣田川郡に界す面積四十五方里、戸數一萬七百、人口六萬九千餘、一町十八村を有す群峯四境を繞り三隈川郡中を横斷す氣候寒冷、佐賀縣道、福岡縣道、小國道郡内を通ずと雖も概ね險惡なり日田町より久留米に通ずる往還のみ坦々として車馬の交通大に便なり材木、薪炭、米穀、椎茸、煙草等を主産とす承和より永享に至る迄大藏氏の領有なりしが大友氏の配下となり後幕府領に歸す

○日田町 は元豆田、隈の二町なりしを輓近合併せしものなり商業繁盛現今猶郡の中樞として諸官衙諸會社併せり市街東北八丁餘に高丘あり

○慈眼山 と云ふ山容雅趣あり名奉行たる鹽谷氏の碑石を建つ山麓西八丁

○月隈 せり丸山又永山と呼ぶ蒼翠掬すべし慶長年中川光氏古城を改築して之に居る大友氏滅後幕府布政所を置き西國の公領を管治せり

○縣立農林學校 去三十五年元布政所の西隣に新設す西北十町

○嶽林寺 あり後醍醐帝勅願の靈場にして鎮西の名刹なり今尙ほ宸翰及び繪旨其の他古文書を藏す南に向ふこと十丁

○星隈 の高丘は風景瀟灑愛するに堪わたり東南三十丁

○三隈川 に出づ巨流滔々西下して筑後に入る此川に産する香魚美味言ふべからず

○日隈 は川の中央に崛起せる翠巒にして一に龜翁山と呼ぶ四顧の水景頗る佳なり山上の

城址は慶長中毛利高政の臣隼人佐之に居り後黒田家の臣栗山某代りて之に居りし所なり

○會處宮 の古蹟は日隈の東北十五丁にあり成務天皇五年鳥羽宿禰の居りし所

○縣社大波羅社 は殿宇の壯麗縣下屈指たり息長足姫外二神を祭る西行八町

○咸宜園 の跡あり故廣瀬淡窓私塾を開き育英を以て任と爲し多くの俊才を出せし所なり

○天ヶ瀬温泉 は豆田より東南三里中川村にあり硫黃及び鐵氣を含む豆田より南凡九里

○傳來寺 あり頗る幽趣に富む梶原景季仁田忠常卷狩の故實を阿蘇の大宮司に問ひ歸途此寺を建立し大智禪師を迎へて開山とせりと云ふ之より更に西方四里中津江村鯛生野に

○金坑 あり海内無比の良坑と稱せらる前編既に之を記せり

### 第十一章 下毛郡

縣の西北端に位し東南は宇佐、玖珠、日田の三郡、南西は福岡縣田川築上二郡に接し、北は一帶周防灘に面す、面積三十三方里、戸數一萬三千、人口七萬九千餘、一町二十五村を有す古は上毛郡を合して單に美毛と稱せしとかや土地膏腴民産豐富なり明徳の頃より大友氏に屬し後島津氏の侵掠を蒙るに及び黒田氏中津に入り終に其領となり中津城を築く爾來幾多の變遷を経て享保二年奥平昌泰丹後宮津より移封(十萬石)せられ世々相襲ぎ以て維新に至る

○中津町 郡の西北端山國川の河口にあり玖珠、日田、宇佐、下毛、築上各郡の中樞に當り商業繁盛なること縣下第一位に居る郡衙公署諸會社あり旅館旗亭亦備はれり玖珠、日田に通ずる縣道、長洲、高田に通ずる濱道路及び大分に通ずる國道を初め門司宇佐を連絡せる九州鐵道等陸路の交通遺憾なしと雖も單り海運は河口遠淺にして船舶の寄港聊か不便なり然れども此

地本縣の關門にして特に旅客の必ず節を曳くべき天下の奇勝耶馬溪日は實に西南三里の地にあれば一たび足を九州に入る、の士必ず此の驛に過らざるものなし西南市街の端なる

○郷社八幡大江神社 は風致に乏しと雖も山緒正しき古社にして新魚町の

○自性寺 は池大雅堂の僑居せしことあり襖障の書畫今猶存し大雅寺の名あり

○中津公園 は規模大ならずと雖も水雲の眺望亦俗腸を洗ふに足る園内三所宮、中津神社等あり又明治の偉人福澤翁の稱道せし獨立自尊の主義鼓吹の爲に建立せる大石碑及白石照山大久保鹿山人二先生の石碑兀立せり園は元中津城本丸の跡にして天正十四年黒田孝高創めて之を築き後慶長五年細川忠興之に代り元和六年に至り修造全く成り寛永九年小笠原長次元祿十一年小笠原長四を経て享保元年奥平昌春に移り以て明治維新に至れるなり城地の形扇に似たるより扇城又は要城と云ひ郷名に因みて大家城地名によりて丸山城とも呼べり之より十丁許東北の街端に

○郷社閻無濱神社 あり豊日別命外數神を祀る社地を龍王濱又閻無濱と云ふ老松枝を交へ白砂塵を留めず雲山眺望亦甚佳なり萬葉以下諸集吟詠少からざるの勝地とす東一里

○閻々の濱 は萬葉時代より世に知られたる名所なれども滄桑の變今其風致を喪へり

○縣社薦神社 中津町より東南一里半宇大貞にあり應神、仲哀、神功の三柱を祀る殿宇壯麗古木鬱蒼廣大なる三角池は幽邃なる神苑に圍繞せられ玉澤、鉾澤、鏡澤の三叢島其中に浮び

幽禽人を恐れず游鱗聲に應じて集る眞に多く見難きの靈境なり同社より西十數丁鶴居村永添に

○正行寺 あり碩學にして蘭を畫くに妙を得たる雲華の出でし寺なり之より東南一里半

○八幡神社 は八面山の麓にあり和氣清麿卿の事跡を存す山に登ること一里

○郷社箭山神社 あり八面山權現と云ふ應神神功比賣の三神を祀る山麓より西北一里半

○郷社相原神社 は鶴居村宇藍原にあり宇佐八幡を勸請せしが保延元年つる女及び其子市太郎の二人大井手堰の人柱となりしより里人秋津彦秋津姫の二柱を合祀し鶴市神と崇尊せり

### 耶馬溪

山國川に添ひたる一帶の谿谷にして古は山國溪と唱へしが頼山陽一たび其詩文に耶馬の字を用ゐてより忽ち其勝景天下に喧傳せらるゝに至れり溪の長さ十五里支溪を合すれば百里に垂んとす中津より玖珠、日田兩郡に通ずる道路坦然として開通し老幼婦女尚ほ能く遊覽を縦にすべし而して世人動もすれば青、羅漢附近を以て耶馬の景色濁るものとなし歩を返すものあり之れ素と溪中の一支勝に過ぎず其の全景を探らんと欲せば須らく旬日を費すべし而して又其觀望の位置を得ざるが爲めに故らに口の林、高城に脚を進めながら最好景の一斑をだに觀取せずして耶馬溪深く賞するに足らずと速断するものあり遺憾の極と云ふべし茲に記するもの唯其幹骨のみ徒らに勝景を叙して佛頂糞を加ふるに忍びざればなり

中津町より南一里宇三口に出で相原神社に詣づ、尙ほ上ること半里右折川を渡れば唐原梅林に出づ、流に沿ふて廻る一里妙見山下の河岸に到り山水を併せ見るべし、歩を進むこと一里弘法窟あり、前川を渡れば樋田驛に出で本道に合す 若し右折唐原に出でずして本道を直行せば野路の手斧立神社あり此附近に日野大納言の詠歌なる真坂の洞ありと云へど今は痕跡だも留めず之より坂を下ること十丁餘魚返の小瀑布あり河原に出で、見るべし、進むこと五六丁所謂佛坂の勝に出づ形田橋より回瞰するを好とす、此橋を架せる流れに沿ひて進まば支溪屋形の好景あ

り本道に沿へば直に樋田驛に出づ對岸曾木を望む頗る好し、少しく進めば有名なる青生の隧道に出づ僧禪海の苦辛經營に成ると云ふ前面渡舟あり對岸觀を異にす、少許にして耶馬橋に至る青生の景を回顧するに宜し橋畔の旅舎卷柿を販ぐ、之より左折すれば東谷川の支溪にして玖珠舊道なり行くこと一里洞鳴橋あり河原に出で、瀑と山とを併せ見るべし橋を渡り田徑を下れば羅漢寺の門前に出づ更に少しく登れば二王門に達す此より峻坂を攀ちて堂に到り奇巧を探り眺望を縦にすれば飛來峯、天人橋、伏虎巖等所謂二十四勝眼下に集るべし寺内に耶馬溪文庫、耶馬溪保勝會あり

再び耶馬橋に返り自然橋を渡り流に沿ふて迺れば即日田に通ずるの舊道にして賢女嶽を望み冠石野山下を過ぎ岩洞山の奇勝を探るべし山下の久福寺は千年以前の古刹なり右に平田城址の勝景を觀又川を隔て、立留の奇景を望み西淨寺に詣て尙ほ進で宮の馬場に出で福土支溪に入らば城門の瀑の勝あり對岸口の林を望む頗る好景なり鶴坂の下り松を過ぎ飛瀨の五瀑を見小友田に進まば醉仙峯、内洞の景勝は皆對岸にあり机淵の岸下を廻り津民川を渡る正木の瀑、河原口の長岩、落合の瀑等稀有の勝なり渡頭より大洞、高城等の景勝を望み琵琶淵河畔に沿ひ鳴瀬山を廻り柿坂に出で本道に合す是れ曾て山陽の通過せし道なり翻て耶馬橋より直に新道を進むときは巖野瀑、三ヶ月池の舊蹟を探り立留の岩下を過ぎ川を隔て、冠石野岩洞山平田城址を望むも亦好風景なり行くこと數丁口の林は溪中の小驛にして之より柿坂驛に至るの間内洞、小屋敷、高城、城井、烏帽子山、長藪、鶴岩、鯛掛岩等の勝景送迎に違あらず柿坂驛より對岸小河内の天橋あり路傍の旅舎に喫猪亭と題す山陽の豪猪を煮たる亭と云ふ屋を廻れば擲筆岩あり頼山陽筆を投じて止みしより此名あり尙ほ數丁にして道左右に岐る左玖珠道に進まば二里にして山移村

に出づ鳴良附近數千の石柱高く碧空に環抱し怪松盤屈峯頭に亂生し湖水濛々岸脚を廻る愈進めば溪漸く窮し山谷深遠の極なる舞出橋の奇巧を過ぎ始めて快瀾なる玖珠郡の高原に出づ此間數里新耶馬溪と稱せらる又柿坂より玖珠道に入らずして直に本道を進まば田社神社の杜あり鹿隈山麓を廻れば大久保大神宮社あり四望快瀾の勝地之より左折すれば金吉に出づ溪小なりと雖も岩石の奇なること寧本溪に過ぐ字伊福に後藤基次の墓あり史家の考究に價す立羽多の奇岩は此奥にあり又金吉に入らずして本溪を行かば妙見橋より樋山路の村落を見淨眞寺に詣て大島に出で雲輿橋を渡り宮園驛に着す村西に雲の杜と稱する八幡社あり山神橋より西溪を望む頗る雅致あり一戸驛に到り妙見岳の佳景を探り中摩に出れば右方奇巖の簇立するあり笏岩と云ふ又支溪羽高溪の奥には京巖、岩伏の奇あり

中摩より一里半守實驛の朝陽橋は拱巖前に峙ち眺賜甚好し日田道の景勝は此にて盡ると雖も橋東より北進するときは一里にして教順寺の念佛橋に出づ懸崖の凄滄云ふべからず流に沿ふこと數丁猿飛の奇勝あり歩を返して多良川を渡れば溪流頗る趣あり尾曲橋を渡り十丁幽趣の瀑布あり深林を離れば槻木村となり毛谷村六助の墓を弔ふべし此より猶進まば二里にして耶馬溪の本源英彦山に達す

## 第十二章 宇佐郡

縣の北端に位し東南は西國東、速見、玖珠三郡、西は下毛郡に接し北は周防灘に瀕す面積二十七方里、戸數一萬三千、人口七萬六千、三町二十四村を有す地肥の氣候溫和なり國道東西に貫通し縣道海濱に通じ玖珠道南北に交り加ふるに九鐵柳ヶ浦に終り而も本年中に郡の東端岩崎に延長



せられんとす唯長洲港水淺くして巨船の寄港に不便なるを遺憾とす、往古は平重盛の領する所なりしが後大友に移り黒田、細川、松平相繼ぎ中津、島原、小笠原及び幕府領、宇佐神領等あり維新後は一旦小倉縣に又福岡縣に編入せられ八年下毛郡と共に本縣の管轄に歸せり

○四日市町 是舊幕府役所のありし所にして今尚ほ郡役所等を置く町内に

○東西兩本願寺 兩別院あり共に九州第一の巨刹なり北一里八幡村の

○郷社乙咩社 是宇佐八箇社の一にして攝社に列せらる社前に盲人養育山之碑あり鹽谷郡代盲人の扶助法を設けたる記念なり同村字森山に

○安樂院 あり宇佐宮成大宮司の菩提所にして頗る古刹なり之より西半里糸口村字芝原の

○善光寺 是天徳二年空也上人の開辟に係る日本三善光寺の一にして其本堂は特別保護建造物に編入せられ古佛其他什寶許多を藏す西南一里長峯村佐野にある

○郷社大根川神社 是宇佐八箇社の一にして同社より南半里大字清水に

○清水寺 あり養老中の開基にして平重盛の墓境内に存す此より南東一里半

○小倉池 是周圍一里恰も天然の湖の如し四日市に歸り國道を行ぐこと半里驛館村幸島に

○郷社泉神社 あり大化年間之古社にして宇佐八箇社の一なり尚ほ東八丁大字樋田の

○郷社郡瀨社 是和銅年間之を奉祀す亦八箇社の一なり驛館川の船橋を渡れば松林中に

○縣社鷹居神社 あり宇佐神宮の故址にして眺望甚好し明治十四年境内に招魂社を創建す

○孝女市之墓 是船橋より東南一里矢部村にあり藩主奥平昌高之を表彰して碑を建つ

○宇佐町 是戸數六百餘の小市街なれども宇佐神宮の鎮座せるあれば其名全國に響き且古蹟に富めるを以て旅客必ず一日を費し名物の宇佐餠を購ふを例とす市街の東端なる鐵の鳥居を

通り吳橋を渡り宏壯なる二王門を過ぐれば即神苑なり大馬場を上り西大門を入れれば上宮三宇あり特別保護建造物に編入せられ又天復古鐘は國寶に指定せらる境内西中門の左側に勅使松あり飛鳥井中將勅使として參向の時京都より鉢植の松を持下り栽ゑられたるを始めとす社殿は三宇あり應神天皇、比咩大神、神功皇后を祀る抑も本宮は伊勢大廟に次ぐの宗廟として皇室の尊崇甚だ厚く曾て炎上の時山陵に準じて廢朝の事あり境内古木森々として靈氣身に迫る上宮鎮座の地を小椋山又龜山と云ひ大尾山西山と並び峙つて菱の形を爲す三山を併稱して菱形山と云ふ山麓に菱形池あり其他攝社末社故蹟勝地より歴史縁起什寶古物に就き説明すべきもの許多ありと雖も本誌の能く盡すべきにあらざれば唯其の勝地の主なるものにつき略記するに止む

○若宮社 是神宮境内にあり其神像五軀は國寶に指定せらる

○寄藻川 是吳橋の下を流れ下流を月瀬川と云ふ月と笠とを歌枕とす

○極樂寺 是神龜年間の創設にして有名の曼荼羅を藏す

○大尾山 是和氣公神託を蒙りし地なり

○大樂寺 是後醍醐天皇の繪旨外數點の什寶を藏す其彌勒菩薩座像は國寶に指定せらる

○圓通寺 是寛元年間の創設にして著名の古刹なり

○地藏院 是宇佐町の東半里宇日足にあり僧仁開作木目不動を安置す

○馬城峰 是大元山或は御許山の稱あり宇佐八幡の出現地と稱す大元神社あり明治元年長

州の脱兵四日市なる幕府の陣屋を焚き此山に旗を揚ぐ之を御許騷動と云ふ

○長洲町 是九鐵の終點にして海陸交通の衝に方り商業の繁盛の地なり

○郷社和間神社 是宇佐宮の北二里和間村にあり宇佐宮放生會の神幸所なり

- 西椎屋瀑布 は南院内村の東南端玖珠那の境にあり實に稀有の天瀑にして東四里に
- 福貴野瀑布 あり水勢西椎屋に及ばずと雖も風景は之に倍せり尙ほ東二里にして
- 東椎屋瀑布 あり水源を速見郡塚原山に發す壯觀敢て西椎屋に譲らず
- 縣社妻垣神社 は天平神護年間の勸請にして宇佐八幡と同體なり安心院村にあり
- 孝子右京墓 は安心院の東一里津房村にあり

### 大分縣案内終

明治四十二年七月十日印刷  
 明治四十二年七月十五日發行

## 大分縣

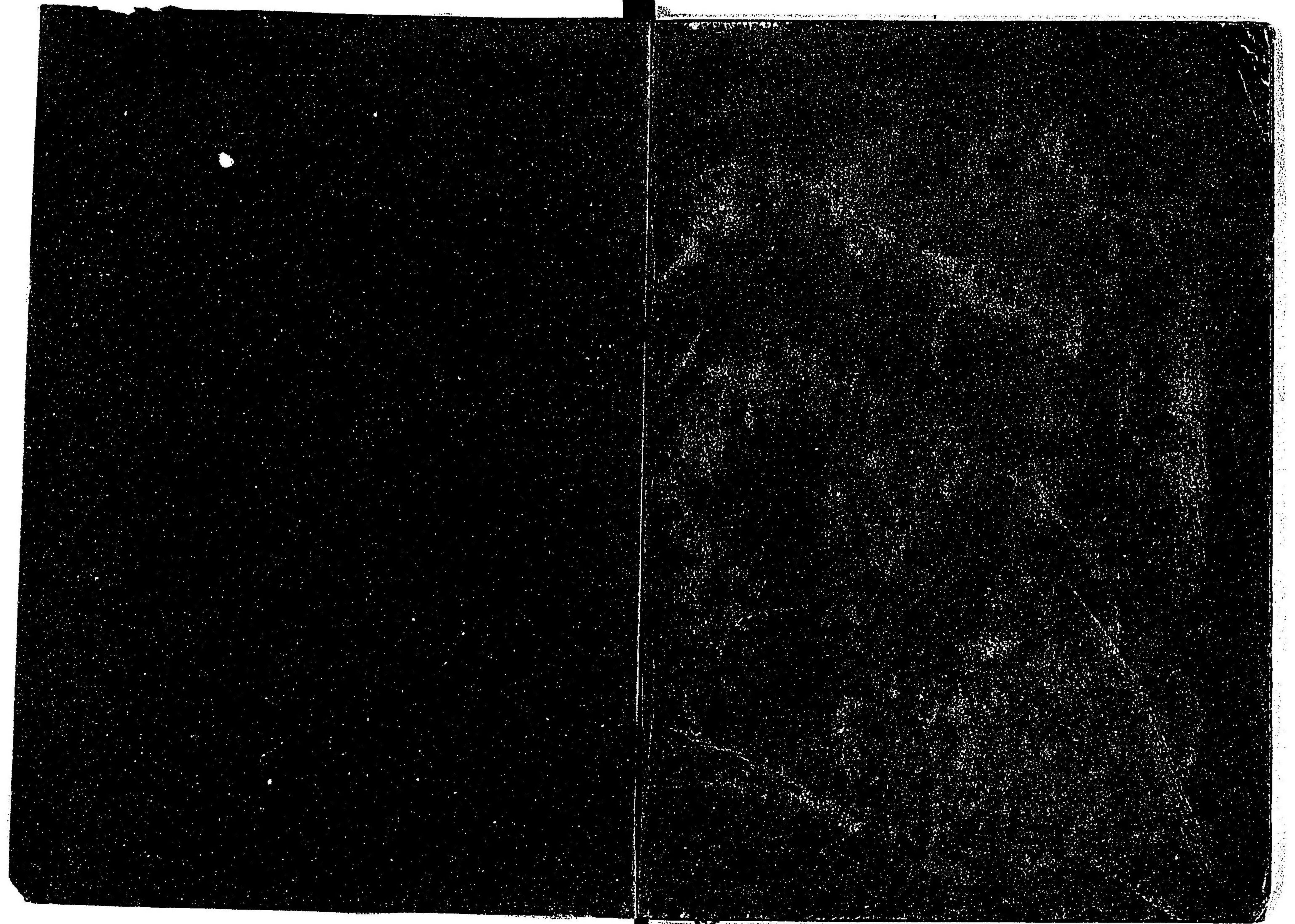
印刷者 金子久太郎

神戸市兵庫湊町二丁目二十六番地

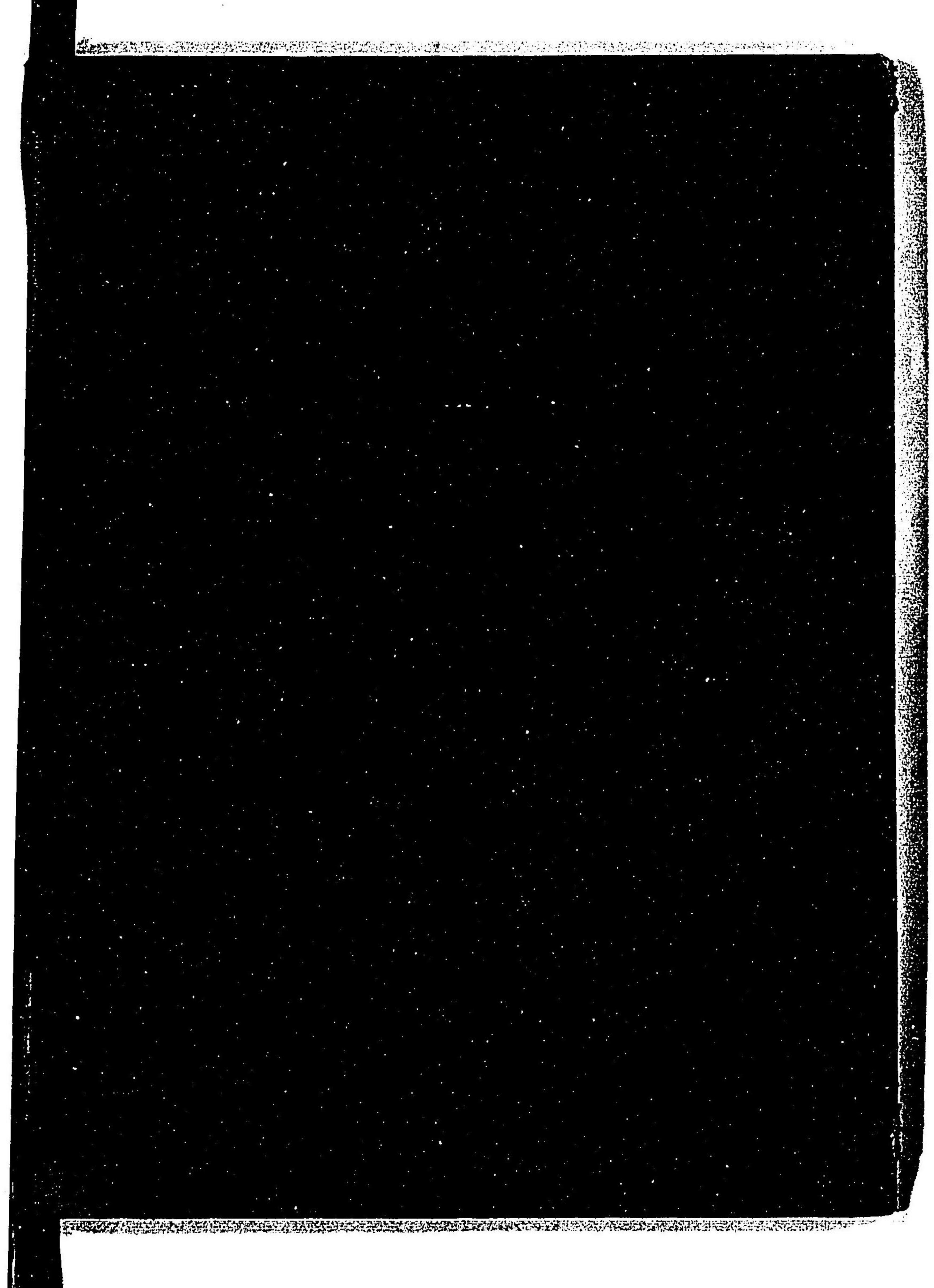
印刷所 株式会社 金子印刷所

神戸市兵庫湊町二丁目二十六番地





25  
832





026141-000-5

25-832

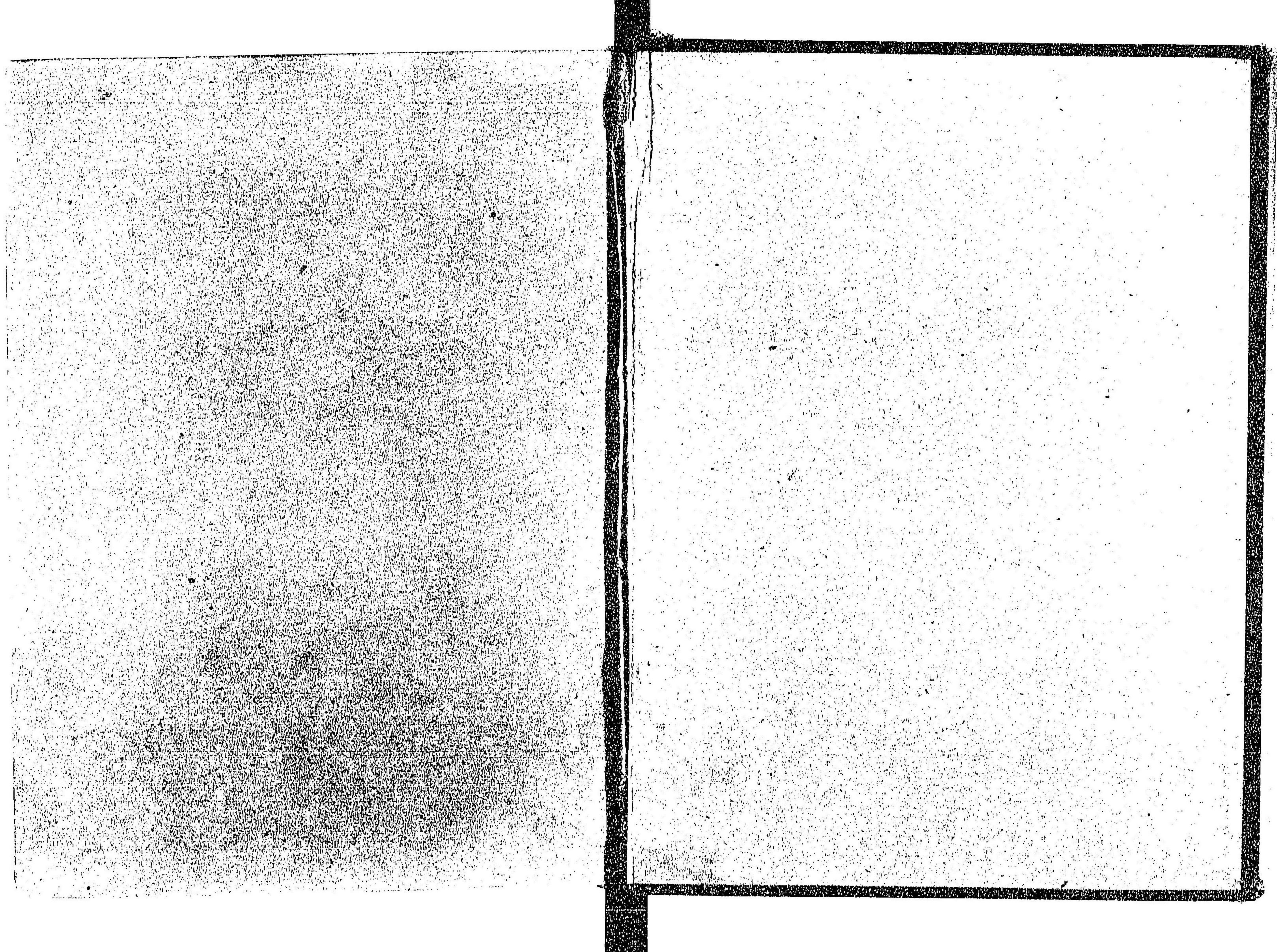
大分県案内

大分県／編

M42

ADC-3812





25  
832